

第3章 評価と課題

第1節 定量的目標の評価

1 定量的目標の評価方法

本事業で定めた定量的目標の評価のため、項目ア～カ、ケ、コについては、アンケート調査により生徒の意識の変化を調査することとした。項目キ、ク、サについては、卒業生の進路動向から結果をまとめることとした。

定量的目標のア～カ、ケ、コに関わるアンケート調査は全校生徒を対象に6月と12月に実施した。新ひだか町に対して「魅力・愛着」が持て、「課題」を理解し、地元での「将来」について考えることができたかを測定した。「進路」「資格取得」「ICT」「英語教育」などへの考えがどのように変化したかを測定した。アンケートはいずれも、「大いにあてはまる」を4、「あてはまる」を3、「あまりあてはまらない」を2、「まったくあてはまらない」を1として回答することとした。

アンケートの集計にあたっては、結果を明確に判断するため、肯定的な評価をした生徒の割合から生徒の意識の変化を図ることとした。

また、事業3年目における生徒の変化を理解するため3年間継続して本事業のプログラムを経験した令和3年度の入学生(現3年生)については、令和3年度の第1回目と令和5年度の第2回目の評価を比較した。令和4年度入学生(現2年生)については、令和4年度の第1回目の評価と今年度の2回目の評価を比較した。英語に関する項目は、定量的目標における評価項目が卒業生を対象に集計した項目であることと、英語教育に関する総合的な評価を行うため、コミュニケーション、海外の人との交流に加え、読む、書くなどの英語に関するアンケート項目を全て集計した結果を比較した。

2 定量的目標の評価結果

(1) 令和5年度の評価結果

項目	目標値	肯定的評価をした生徒の割合		
		6月	12月	増減
ア 地域に魅力を感じ、愛着を持った生徒の割合	在籍者の80%以上	68.5%	75.0%	6.5pt
イ 地域の課題を発見し、解決に向けて多面的・論理的に考え、行動できた生徒の割合	在籍者の80%以上	53.2%	71.7%	18.5pt
ウ 将来、地域のために貢献したいと考え、行動できた生徒の割合	在籍者の80%以上	41.9%	54.4%	12.5pt
エ 様々な産業人との交流を通し、自身の進路について考えることができた生徒の割合	在籍者の80%以上	54.3%	78.2%	23.9pt
オ 自身が目指す進路に関連した資格取得を積極的に行えた生徒の割合	在籍者の80%以上	78.8%	91.8%	13.0pt
カ ITやICT, IoTの役割を理解し、活用することができる生徒の割合	在籍者の80%以上	77.9%	87.8%	9.9pt
キ 卒業後、即就農及び地域の主要産業への就職者の割合	卒業生の50%以上	55.3% (事業前3年間)	73.0% (R5卒業生)	17.7pt
ク 卒業後、就農及び地域の技術者を目的とした進学者の割合	卒業生の40%以上	18.4% (事業前3年間)	42.9% (R5卒業生)	24.5pt
ケ 英語で日常的なコミュニケーションができるようになった人の割合	卒業生の30%以上	45.0%	62.5%	17.5pt
コ 在学中に海外の人と交流した人数	卒業生の50%以上	90.0%	95.0%	5.0pt
サ 将来的な新規参入を目指して進学または雇用就農した人数	3人以上 (3年間累計)	0人 (令和3年度まで)	5人 (令和4～5年度)	5人

表1 令和5年度の定量的目標の評価結果

今年度の定量的目標の評価結果は、表1のとおりである。11項目中、オ「自身が目指す進路に関連した資格取得を積極的に行えた生徒の割合」、カ「ITやICT、IoTの役割を理解し、活用できる生徒の割合」、キ「卒業後、即就農および地域の主要産業への就職者の割合」、ク「卒業後、就農及び地域の技術者を目的とした進学者の割合」、ケ「英語で日常的なコミュニケーションができるようになった人の割合」、コ「在学中に海外の人と交流した人数」、サ「将来的な新規参入を目指して進学または雇用就農した人数」の7つの項目で目標とした値を達成した。

目標に到達しなかった項目を見ると、アの「地域に魅力を感じ、愛着を持った生徒の割合」は、年度末に肯定的な評価を行った生徒が75.0%となり、6.5ポイント増加した。イの「地域の課題を発見し、解決に向けて多面的・論理的に考え、行動できた生徒の割合」は71.7%と18.5ポイント増加した。ウの「将来、地域のために貢献したいと考え、行動できた生徒の割合」は54.4%と12.5ポイント増加した。エの「様々な産業人との交流を通し、自身の進路について考えることができた生徒の割合」は、78.2%と23.9ポイント増加した。

サ、「将来的な新規参入を目指して進学もしくは雇用就農した人数」については、3年間の目標を3名としているが、昨年度の2名に追加して本年度は3名の生徒が将来的な新規参入を目指した進学もしくは就職をしており、合計5名となった。1人目の生徒は新規就農を目指して、有機農業の実践農場にて研修をおこなう。2人目の生徒は、ユイメ株式会社の斡旋により愛知県のデルフィニウム栽培農家にて雇用就農した後、将来新ひだか町に戻って新規就農を計画している。3人目の生徒は新規就農した際に6次産業化に取り組むことを想定しており、そのため大学にて6次産業化を専攻することとしている。

(2) 入学時と令和5年度の評価の比較

ア 令和3年度入学生(現3年生)

項目	目標値	肯定的評価をした生徒の割合		
		令和3年 6月	令和5年 12月	増減
ア 地域に魅力を感じ、愛着を持った生徒の割合	在籍者の80%以上	71.1%	80.3%	9.2pt
イ 地域の課題を発見し、解決に向けて多面的・論理的に考え、行動できた生徒の割合	在籍者の80%以上	37.8%	86.3%	48.5pt
ウ 将来、地域のために貢献したいと考え、行動できた生徒の割合	在籍者の80%以上	23.4%	57.5%	34.1pt
エ 様々な産業人との交流を通し、自身の進路について考えることができた生徒の割合	在籍者の80%以上	21.9%	90.0%	68.1pt
オ 自身が目指す進路に関連した資格取得を積極的に行えた生徒の割合	在籍者の80%以上	72.6%	94.2%	21.6pt
カ ITやICT、IoTの役割を理解し、活用することができる生徒の割合	在籍者の80%以上	69.4%	94.4%	25.0pt
キ 英語教育		44.7%	63.8%	19.1pt

表2 令和3年度入学生の定量的目標の評価結果

現在の3年生における本事業による事業開始当初と3年間経過後の変化については表2のとおりである。本学年は入学後にマイスター・ハイスクール事業に取り組むことを知った学年である。評価項目全般にわたって、肯定的な評価を行う生徒が増加しており、マイスター・ハイスクール事業をとおして意識の変化が見られる。

項目別に見ると、エの「様々な産業人との交流を通し、自身の進路について考えることができた生徒の割合」は11項目中最も大きい68.1ポイント増加して90.0%となった。また、イの「地域の課題を発見し、解決に向けて多面的・論理的に考え、行動できた生徒の割合」は48.5ポイント増加して86.3%となった。

一方、ウの「将来、地域のために貢献したいと考え、行動できた生徒の割合」34.1ポイント増加し57.5%となったが、肯定的な評価を行った生徒の割合は最も低かった。

イ 令和4年度入学生(現2年生)

項目	目標値	肯定的評価をした生徒の割合		
		令和3年 6月	令和4年 12月	増減
ア 地域に魅力を感じ、愛着を持った生徒の割合	在籍者の80%以上	63.2%	76.3%	13.1pt
イ 地域の課題を発見し、解決に向けて多面的・論理的に考え、行動できた生徒の割合	在籍者の80%以上	44.3%	74.6%	30.3pt
ウ 将来、地域のために貢献したいと考え、行動できた生徒の割合	在籍者の80%以上	40.6%	63.6%	23.0pt
エ 様々な産業人との交流を通し、自身の進路について考えることができた生徒の割合	在籍者の80%以上	47.5%	89.1%	41.6pt
オ 自身が目指す進路に関連した資格取得を積極的に行えた生徒の割合	在籍者の80%以上	79.2%	94.2%	15.0pt
カ ITやICT, IOTの役割を理解し、活用することができる生徒の割合	在籍者の80%以上	67.0%	90.4%	23.4pt
キ 英語教育		49.6%	71.1%	21.5pt

表3 令和3年度入学生の定量的目標の評価結果

現在の2年生における本事業によるプログラム開始当初と2年間経過後の変化については表3のとおりである。本学年は、本校がマイスター・ハイスクール事業に取り組んでいることを入学前に知ることができた学年である。評価項目全般にわたって、肯定的な評価を行う生徒が増加しており、マイスター・ハイスクール事業を通しての意識の変化が見られる。

項目別に見ると、エの「様々な産業人との交流を通し、自身の進路について考えることができた生徒の割合」は41.6ポイント増加して89.1%となった。イの「地域の課題を発見し、解決に向けて多面的・論理的に考え、行動できた生徒の割合」は30.2ポイント増加して74.6%となった。

一方、ウの「将来、地域のために貢献したいと考え、行動できた生徒の割合」30.2ポイント増加し74.6%となったが、肯定的な評価を行った生徒の割合は最も低かった。

第2節 定性的目標の評価

1 定性的目標の評価方法

定性的目標は、すべてアンケート調査により、生徒の意識変化を調査することとした。定性的目標に関わるアンケート調査は全校生徒を対象に6月と12月に実施した。各項目とも5つの設問に対して「大いにあてはまる」を4、「あてはまる」を3、「あまりあてはまらない」を2、「まったくあてはまらない」を1として回答することとした。アンケートの集計にあたっては、結果を明確に判断するため、肯定的な評価をした生徒の割合を測定することで生徒の意識の変化を図ることとした。

また、事業3年目における生徒の変化を理解するため3年間継続して本事業のプログラムを経験した令和3年度の入学生(現3年生)については、令和3年度の第1回目と令和5年度の第2回目の評価を比較した。令和4年度入学生(現2年生)については、令和4年度の第1回目の評価と今年度の2回目の評価を比較した。

2 定性的目標の評価結果

(1) 令和5年度の評価結果

項 目		肯定的評価をした生徒の割合		
		6月	12月	増減
自己認識	自分を客観視する力, 自分に対する自信ややり抜く力	72.2%	78.5%	6.3pt
意欲	物事に対して意欲的に取り組める力	76.0%	81.9%	5.9pt
忍耐力	根気強く物事にあたる力	64.3%	71.8%	7.5pt
自制心	自分自身の感情や欲望などをうまくコントロールする力	69.5%	77.4%	7.9pt
メタ認知 ストラテジー	自分が今置かれている状況や理解度を把握する力	74.0%	80.6%	6.6pt
社会性	リーダーシップがとれ, 他者とのコミュニケーションがとれる力	62.6%	68.3%	5.7pt
回復力と 対処能力	問題が起こった時にすぐに立ち直れる, またそれに対応できる力	66.6%	72.0%	5.4pt
創造性	ものを作ったり, 工夫したりする力	61.7%	67.3%	5.6pt

表4 定性的目標の評価結果

今年度の定量的目標の評価結果は、表4のとおりである。年度初めの評価と比較すると全ての項目において肯定的な評価をした生徒の割合が増加した。項目ごとの増減については、大きな差はないように見られる。この1年間を通してバランスよく変化したものと考えられる。項目別に見ると、意欲81.9%、メタ認知ストラテジー80.6%と評価が80%を超えており、他の項目と比較しても評価が高かった。一方、忍耐力71.8%、社会性68.3%、創造性67.3%と、これらの3項目は、他の項目と比較すると評価が低かった。

(2) 入学時と令和5年度の評価の比較

ア 令和3年度入学生(現3年生)

項 目		肯定的評価をした生徒の割合		
		令和3年6月	令和5年12月	増減
自己認識	自分を客観視する力, 自分に対する自信ややり抜く力	63.8%	84.5%	20.7pt
意欲	物事に対して意欲的に取り組める力	64.3%	86.5%	22.2pt
忍耐力	根気強く物事にあたる力	60.0%	77.5%	17.5pt
自制心	自分自身の感情や欲望などをうまくコントロールする力	63.8%	81.0%	25.6pt
メタ認知 ストラテジー	自分が今置かれている状況や理解度を把握する力	58.9%	85.5%	26.6pt
社会性	リーダーシップがとれ, 他者とのコミュニケーションがとれる力	52.4%	76.5%	24.1pt
回復力と 対処能力	問題が起こった時にすぐに立ち直れる, またそれに対応できる力	61.1%	82.5%	21.4pt
創造性	ものを作ったり, 工夫したりする力	55.1%	74.5%	19.4pt

表5 令和2年度入学生の定性的目標の評価結果

現在の3年生における本事業によるプログラム開始当初と2年間経過後の変化については表5のとおりである。評価項目全般にわたって、肯定的な評価を行う生徒が増加している。

項目別に肯定的な評価を行った生徒の割合を見ると、意欲86.5%、メタ認知ストラテジー85.5%、回復力と対処能力82.5%と、他の項目と比較して評価が高かった。一方、忍耐力77.5%、社会性76.5%、創造性74.5%と他の項目と比較すると評価は低かった。

増減に注目してみると、メタ認知ストラテジー26.6ポイント、自制心25.6ポイントと、他の項目と比較して増加した割合が大きかった。一方、忍耐力17.5ポイント、創造性19.4ポイントと他の項目と比較して増加した割合が小さかった。

イ 令和4年度入学生(現2年生)

項 目		肯定的評価をした生徒の割合		
		令和3年6月	令和4年12月	増減
自己認識	自分を客観視する力、自分に対する自信ややり抜く力	73.0%	84.6%	11.6pt
意欲	物事に対して意欲的に取り組める力	77.5%	88.4%	10.9pt
忍耐力	根気強く物事にあたる力	63.9%	79.6%	15.8pt
自制心	自分自身の感情や欲望などをうまくコントロールする力	69.1%	82.1%	13.0pt
メタ認知 ストラテジー	自分が今置かれている状況や理解度を把握する力	71.2%	86.7%	15.4pt
社会性	リーダーシップがとれ、他者とのコミュニケーションがとれる力	62.1%	75.1%	13.0pt
回復力と 対処能力	問題が起こった時にすぐに立ち直れる、またそれに対応できる力	64.9%	81.4%	16.5pt
創造性	ものを作ったり、工夫したりする力	60.0%	77.5%	17.5pt

表6 令和3年度入学生の定性的目標の評価結果

現在の2年生における本事業によるプログラム開始当初と2年間経過後の変化については表6のとおりである。評価項目全般にわたって、肯定的な評価を行う生徒が増加している。

項目別に肯定的な評価を行った生徒の割合を見ると、意欲88.4%、メタ認知ストラテジー86.7%、自己認識84.6%と、他の項目と比較して評価が高かった。一方、社会性75.1%、創造性77.5%と他の項目と比較すると評価は低かった。

増減に注目してみると、創造性17.5ポイント、回復力と対処能力16.5ポイントと、他の項目と比較して増加した割合が大きかった。一方、自己認識11.6ポイント、意欲10.9ポイントと他の項目と比較して増加した割合が小さかった。

第3節 生徒アンケート自由記述による評価

1 生徒アンケート自由記述による評価方法

1年間のプログラムを経て、生徒の考えがどのように変化したかを知るため、自由記述によるアンケート調査を1月に実施した。質問項目は、今年度の感想として「マイスター・ハイスクール事業に関する講義や実習、視察などをとおして、学習できて良かった、知ることができて良かった、と思うものは何ですか？具体的に記入してください。」と、次年度に期待するものとして「マイスター・ハイスクール事業で、「こんなことを学習したかった、体験したかった」というようなものは何ですか？具体的に記入してください。」の2つを設定した。

アンケートはグーグルフォームを活用し、全校生徒に対して実施した。

アンケートのテキストデータはユーザーローカル テキストマイニングツール(<https://textmining.userlocal.jp/>)を使用して解析し、語句の傾向や関係性を分析することにより、生徒の考え方の変化について分析することとした。

分析は、専門的な教育活動を行った食品科学科、生産科学科馬事コース、生産科学科園芸コースの3つの集団について行った。生産科学科1年生は、園芸コースのプログラムと馬事コースのプログラムの両方を受講しているため、記載内容を園芸コースに関連するものと馬事コースに関連するものとに分類した。また、1年生についてはプログラムが2年生や3年生と比較すると少ないため、回数に関連する記載は除外することとした。

分析項目は、ワードクラウドとして2つのアンケートに出現する単語をスコア別に大きさを図示し、概要を把握することとした。単語分類・単語出現比率では2つのアンケートに出現する単語を品詞別に分類しその傾向を分析することとした。

2 食品科学科の評価結果

(1) テキストマイニングによる分析結果

今年度の感想

次年度への期待



図1 ワードクラウドによる分析結果(左:今年度の感想, 右:次年度への期待)

単語分類

感想にだけ出現	感想によく出る	両方に よく出る	期待によく出る	期待にだけ出現
進路 知れる スマート ハイスクール タレ 経験 事業 真面目 社会 製造 食品表示 もらう ai チーズ マーケティング 仕方 大事 必要 意見 消費者 教える しれる 見れる 奥深い 高める おる 呼びかける 増える 売る 届ける	よい できる マイスター 知識 学べる 普段 販売 内容 機会 出来る 考え 方々 視察 関わる	企業 食品 良い 知る 授業 商品 農業 商品開発 連携 仕事 講義 専門 方法 作る 考える 聞く 行く 実習 pop 学校 就職 受ける 使ってくれる わかる 思える 残る	思う 詳しい 深い 多い 学ぶ 体験 学習 新しい いい 楽しい 美味しい 悪い 無いつける 売れる	欲しい ほしい 日高 上手い 薄い 見学 記憶 講演 酪農 馬 増やす 決める 触る 調べる おもう すぎる たる 付ける 分ける 合う 向ける 変える 就く 持つ 育てる 背負う 見つける 食い合う 食べる

2つの文書に出現する単語を、どちらの文書に偏って出現しているかでグループ分けし、表にしている。グループ中の単語は出現頻度が多い順に並ぶ傾向がある。

表7 単語分類による分析結果

■単語出現比率(上位10語)

○名詞

感想	単語	期待
50	企業	50
52	食品	48
58	授業	42
63	商品	37
63	農業	37
72	マイスター	28
100	進路	0
100	スマート	0
100	ハイスクール	0
63	商品開発	37

○動詞

感想	単語	期待
48	知る	52
20	思う	80
93	できる	7
100	知れる	0
16	学ぶ	84
77	学べる	23
35	作る	65
35	考える	65
100	もらう	0
50	聞く	50

○形容詞

感想	単語	期待
0	欲しい	100
51	良い	49
83	よい	17
22	詳しい	78
5	深い	95
0	ほしい	100
18	多い	82
10	新しい	90
0	上手い	100
0	薄い	100

2つの文書に出現する単語を、それぞれどちらの文書に偏って出現しているかでグループ分けし、表にしている。グループ中の単語は出現頻度が多い順に並ぶ傾向がある。

図2 単語出現比率による分析結果

(2) 評価

食品科学科の分析結果は図1、表7、図2のとおりである。

ワードクラウドの結果を見ると、今年度の感想では、「学べる」「商品開発」「マイスター」がほぼ

感想にだけ出現	感想によく出る	両方に よく出る	期待によく出る	期待にだけ出現
出来る よい 聞ける 日高育成牧場 凄い 普段 くれる 教える 知れる 行ける 実習 わかる 入れる 学べる 行う 見る jba 活用 出来やすい 嬉しい 師 爪 蹄 馬体 くださる させる とおす もらう 廃れる 役に立つ	良い できる 藤沢 体験 札幌 病気 調教師	馬 行く 詳しい 競馬場 jra 仕組み 勉強 競馬 農業 馴致	学ぶ 知る 聞く 思う 調教 いく 入る 接す 学校 育成 血統	いい 欲しい 牧場 つく 出かける 取り入れる 取る 曳く 育てる 関わる 出産 学習 見学 講義 門別競馬場 まま システム トレセン バックヤード レース 乗り 仕事 会社 作り 公演 内容 動物 医療 地域 後期

2つの文書に出現する単語を、どちらの文書に偏って出現しているかでグループ分けし、表にしている。グループ中の単語は出現頻度が多い順に並ぶ傾向がある。

表 8 単語分類による分析結果

■単語出現比率(上位10語)

○名詞

感想	単語	期待
50	馬	50
35	実習	65
80	日高育成牧場	20
66	将来	34
37	乗馬	63
0	日高	100
0	農業	100
42	競走馬	58
85	育成	15
50	世界	50

○動詞

感想	単語	期待
20	学ぶ	80
89	できる	11
36	知る	64
7	思う	93
52	学べる	48
27	関わる	73
0	乗る	100
0	増える	100
45	出来る	55
45	感じる	55

○形容詞

感想	単語	期待
62	良い	38
100	難しい	0
20	深い	80
20	詳しい	80
0	いい	100
83	よい	17
45	多い	55
100	凄い	0
100	楽しい	0
0	ほしい	100

2つの文書に出現する単語を、それぞれどちらの文書に偏って出現しているかでグループ分けし、表にしている。グループ中の単語は出現頻度が多い順に並ぶ傾向がある。

図 4 単語出現比率による分析結果(上位10語)

(2) 評価

生産科学科馬事コースの分析結果は図 3, 表 8, 図 4 のとおりである。

ワードクラウドの結果を見ると、今年度の感想では、「日高育成牧場(JRA)」「JBBA」「新ひだか町」がほぼ中央に大きく表示されており、「馴致」「馬体」「世界の競馬」「藤沢(調教師)」という言葉が中央に近いところに表示されている。次年度への期待では、「門別競馬場」「JRA」が中央に大きく表示されており、「馴致」「牽く」「血統」「蹄鉄」という言葉が中央に近いところに表示されている。

今年度の感想における単語分類ならびに単語出現比率を見ると、「日高育成牧場」「JBBA」「実習」「活用」等の言葉があげられている。キーワードと生徒のコメントを照らし合わせて見ると「競走馬の初期育成から後期育成についてを、JBBAで学習し、馬を扱う難しさと魅力を実感した。場長様から直接お話を聞いたり、実際にこれから活躍する当歳を使わせていただいたりと、本当に貴重な経験と学習をした。」という内容からも、本事業の実施により学校の授業や実習に加えて外部団体の施設や設備を利用することで学習が充実したことが察せられた。

次年度への期待における単語分類ならびに単語出現比率を見ると、「牧場」「競馬場」「行く」等の言葉があげられている。キーワードと生徒のコメントを照らし合わせて見ると「将来競走馬の生産牧場で働きたいのもっと詳しく働き方などを学びたいです。」という内容からも将来の仕事のイメージが具体化されていて、仕事の内容や働き方などの情報を求めていることが察せられた。

続いて生徒のコメントを抜粋してみたい。

(3) 生徒のコメント

ア 今年度の感想

- ・軽種馬の世界は大変というイメージしかなく興味がなかったが、本当の難しさを知り、さらに難しい中にもやりがいや感動がある事を、身をもって知った。(3年生)
- ・将来牧場経営をすることが夢なので、経営についてもっと学びたかったです。(2年生)
- ・藤沢元調教師の公演で、厩舎関係の話や、馬との関わり方を学んで、将来に役立てたいと思った。(2年生)

イ 次年度への期待

- ・門別競馬場に行ってみたかった。(2年生の視察がコロナで中止になってしまい残念)(3年生)
- ・競走馬になるまでのことが主に多く授業としてあったので競走馬時代についての授業もあつたらよかった。(2年生)
- ・馬の栄養をもう少し深く学んでみたかったし、子馬、繁殖馬、乗馬に分かれてそれぞれ検証して

みたかった。(2年生)

4 生産科学科園芸コースの評価結果

(1) テキストマイニングによる分析結果

今年度の感想

次年度への期待



図5 ワードクラウドによる分析結果(左:今年度の感想, 右:次年度への期待)

単語分類

感想にだけ出現	感想によく出る	両方によく出る	期待によく出る	期待にだけ出現
学べる 知れる 北海道大学 行く 機械 新しい 出来る 見る 効率化 未来 いく 変わる 広がる 考える 聞ける 行ける イメージ ロボット 北海道 流通 興味 開発 おいしい おもしろい すごい 少ない 楽しい 美味しい 難しい かかる	よい できる 視察 先生 野口 現場 お話	農業 知る スマート 良い 北大 行う 面白い 林業 トラクター 聞く 技術 授業 活用 進む 必要	思う 深い 詳しい 学ぶ 日高 学習 勉強 体 験 実習 研究 マイスター 土壌 栽培 漁業 無人 かかわる きく 地域	いい ほしい 物足りない 花 作る 関わる ミニトマト 農家 馬 今後 効率 大学生 建設 私たち 管外 花野菜 販売 運転 遠隔 させる しれる 作れる 使う 動かす 取り組み 増やす 感じる 扱う 持てる 掘り下げる

2つの文書に出現する単語を、どちらの文書に偏って出現しているかでグループ分けし、表にしている。グループ中の単語は出現頻度が多い順に並び傾向がある。

表9 単語分類による分析結果

■単語出現比率(上位10語)

○名詞

感想	単語	期待
50	農業	50
42	スマート	58
61	北大	39
0	花	100
67	視察	33
100	北海道大学	0
5	日高	95
64	林業	36
19	学習	81
42	トラクター	58

○動詞

感想	単語	期待
54	知る	46
18	思う	82
88	できる	12
37	行う	63
100	学べる	0
100	知れる	0
30	学ぶ	70
0	作る	100
0	関わる	100
100	行く	0

○形容詞

感想	単語	期待
75	よい	25
14	深い	86
7	詳しい	93
63	良い	37
0	いい	100
0	ほしい	100
0	物足りない	100
42	面白い	58
100	新しい	0
100	おいしい	0

2つの文書に出現する単語を、それぞれどちらの文書に偏って出現しているかでグループ分けし、表にしている。グループ中の単語は出現頻度が多い順に並び傾向がある。

図6 単語出現比率による分析結果(上位10語)

(2) 評価

生産科学科園芸コースの分析結果は図5, 表9, 図6のとおりである。

ワードクラウドの結果を見ると、今年度の感想では、「農業」「林業」が中央に大きく表示されており、「スマート」「北海道大学」「視察」という言葉が中央に近いところに表示されている。次年度への期待では、「農業」が中央に大きく表示されており、「日高」「日高管内」といった地域名や「スマート」「花野菜」「トラクタ」という言葉が中央に近いところに表示されている。

今年度の感想における単語分類ならびに単語出現比率を見ると、「農業」「スマート」「北海道大学」等の言葉があげられている。キーワードと生徒のコメントを照らし合わせて見ると「北大のスマート農業教育拠点で、ロボットトラクタの開発過程を見ることができて、面白かった。」という内容から、本事業の視察研修により最先端の農業技術に触れたことが印象に残ったとが察せられた。

次年度への期待における単語分類ならびに単語出現比率を見ると、「花」「日高」「林業」など日高管内を連想させる地名と「作る」「関わる」等の動詞があげられている。キーワードと生徒のコメントを照らし合わせて見ると、「もっと日高管外での実習で花の栽培や販売の体験をしてみたい」、「マイスターで地域の第一次産業の人と関わりたいけど、消費者の方とはあまり関わる機会がなかったので

もっと販売会の参加や地域住民と関わりたかった。」という内容からも学んだ知識を活用し、より実践的に学びたい、より広がりをもとめたいと考えていることが察せられた。

続いて生徒のコメントを抜粋してみていく。

なお、この区分には1年生の記載も含んでおり、結果は人数の多い1年生の記載に振れている可能性がある。

続いて生徒のコメントを抜粋してみていく。

(3) 生徒のコメント

ア 今年度の感想

- ・農業と一括りで考えていたが、様々な分野があると知り、見聞を広めることができよかつたと思う。(3年生)
- ・みどりの食料システム戦略を実現するためには栽培技術の確立が必要だと言うことやいろいろなところが協力して実験を進めていく必要があること学べた。(3年生)
- ・GAPの授業をとおして生産工程管理の内容を初めてきちんと知ることができた。(2年生)
- ・農業や森林、林業のこと、漁業など身近なことでも日常生活では知らなかつたことを実際に見たり体験できてよかつた。(1年生)

イ 次年度への期待

- ・農家が法人化するにはどのような手続きが必要になるのか。(将来法人経営をしたいので)(3年生)
- ・地元の花野菜の視察はもちろん、直売所とか花野菜を観光用として扱っている所を視察してみたい。(2年生)
- ・もっと日高の農作物、例えばデルフィニュームとかミニトマトとか万馬券や他にはダムなど様々な日高の農業を実際に見てみたかつた。(1年生)

第4節 インタビュー調査

1 インタビュー調査の目的

インタビュー調査は、定量的目標や定性的目標の評価では測ることができない生徒個々の進路や高校生活に対する考え方を調査するために実施した。また、本事業が生徒の進路やキャリア形成に及ぼす影響について調査することを目的とした。

2 インタビュー調査の方法

食品科学科、生産科学科園芸コース、生産科学科馬事コースの2学年、3学年の生徒を対象に実施した。実施時期は令和4年10月以降とし、全校生徒の約10%に当たる16名の生徒から聞き取り調査を行った。3学年の対象生徒は、全員昨年度も本調査に協力した生徒である。また、第1回運営委員会において、卒業生のインタビューがあると参考になるのではないかと助言を受け、令和4年度の卒業生(令和5年3月卒業)の5名にもインタビューを行った。この5名のうち4名は昨年度の本調査に協力した生徒である。21名の概要は次のとおりである。

対象者	学年	学科・コース	2年生は希望 3年生は昨年度の希望 卒業生は卒業時の内定先	3年生は内定先 卒業生は勤務先
Aさん	2 年 生	食品科学科	就職(未定)	
Bさん		食品科学科	進学(調理専門学校)	
Cさん		食品科学科	進学(管理栄養士課程)	
Dさん		生産科学科園芸コース	未定	
Eさん		生産科学科園芸コース	就職(運輸業)	
Fさん		生産科学科園芸コース	就職(農業)	
Gさん		生産科学科馬事コース	進学(獣医課程)	
Hさん		生産科学科馬事コース	未定	
Iさん		生産科学科馬事コース	就職(公務員)	
Jさん	3 年 生	食品科学科	進学(4年制大学)	進学(酪農学園大学)
Kさん		食品科学科	就職(食品流通業)	就職(食品流通業)
Lさん		食品科学科	進学(調理専門学校)	進学(専門学校)

Mさん	3	生産科学科園芸コース	就職(職種未定)	就農(研修)
Nさん	年 生	生産科学科園芸コース	就農もしくは進学(4年制大学)	進学(東京農業大学)
Oさん		生産科学科馬事コース	大学(4年制)	進学(東京農業大学)
Pさん		生産科学科馬事コース	就職(乗馬クラブ)	就職(新ひだか町職員)
Qさん	卒 業 生	食品科学科	就職(製菓専門学校)	就職(製菓専門学校)
Rさん		食品科学科	就職(畜産サービス)	就職(畜産サービス)
Sさん		生産科学科園芸コース	進学(農業大学校)	進学(農業大学校)
Tさん		生産科学科馬事コース	就職(乗馬クラブ)	就職(乗馬クラブ)
Uさん		生産科学科馬事コース	就職(軽種馬生産牧場)	就職(軽種馬生産牧場)

表10 インタビュー調査対象者の概要

生徒への質問項目は次のとおりである。

(1) 2年生

- ① 高校卒業後の進路は決まっているか。
- ② 決まっていればその理由や時期はいつか。
- ③ 将来の夢や目標は何か。
- ④ 普段の学校生活ではどんなことに充実感を感じているか。
- ⑤ 高校生の時に伸ばしたいこと、しておきたいことは何か。
- ⑥ マイスター・ハイスクール事業は自分の進路選択にどのように影響しているか。

(2) 3年生

- ① 高校卒業後の進路先。
- ② 進路決定の理由、時期、経緯。
- ③ 以前(高校入学当時)の自分と比較してどんな能力が伸びたと思うか。
- ④ 以前(高校入学当時)の自分と比較して進路に対する考え方にはどのような変化があったか。
- ⑤ マイスター・ハイスクール事業が自分の進路決定にどのように影響したか。

(3) 卒業生

- ① 卒業後の就職先、進学先
- ② 現在の就職先、進学先を教えてください
- ③ 現在の進学先や就職先において、高校時代に学んだことが活かされていると感じること。
- ④ マイスター・ハイスクール事業の2年間で学んだことは、現在のあなたにどのように活かされているか。
- ⑤ 高校生時代と比較して、仕事や勉強をする上でどんな力が伸びたか。
- ⑥ 高校を卒業して現在まで、高校時代に伸ばしておくべきだったと感じることは何か。
- ⑦ あなたの夢や目標の実現、キャリアアップのためにこれから必要なことは何か。
- ⑧ 地域のリーダーや、イノベーターとして農業や地域産業をよりよい方向に改革していくためには、高校時代にどのようなことを勉強したり、経験したりしておくべきか。

2 インタビュー調査の結果(2学年)

対象者	学科 コース	進路 (希望先)	高校卒業後の進路はどのよう に考えていますか?	あなたの将来の夢や 目標は何ですか?	現在の進路先を 決定した時期
Aさん	食品科学科	未定	入学した頃は進学しようと思 っていましたが、高校で学ぶ うちに「なんか違うな」と感 じるようになりました。いろ んな選択肢があって迷ってい ます	自由に自分が思う食品をた くさん作りたいたいです。また、 2年生の授業の商品開発で 学ぶことがたくさんあり、 とても楽しく過ごすことが できたので商品開発の企業 も気になっています。	1年生の後半か ら2年生の前半 にかけて
Bさん	食品科学科	進学(調理 専門学校)	料理をしたり人に食べてもら ったりすることが好きでそれ を進路に活かしたいと思っ ています。	調理師免許を取得してそれ をいかせるようなことをし たい。	中学生の頃。
Cさん	食品科学科	進学(管理 栄養士課 程)	管理栄養士の資格が取れる大 学に進学したいと思っています。 学校も複数あるのでよく 考えて決めたいと思います。	食品に関わる仕事に就きた いと思っています。	まだ完全には決 まっていますが、2年生後半 くらいから考え てはいました。

Dさん	生産科学科 園芸コース	就職 (職種未定)	アクティブで動きのある仕事や接客に関する仕事がいいかなあと考えています。	これといった目標はないのですが、自分の力で生活するために免許を取らなければならないと思っています。	高校入学した後
Eさん	生産科学科 園芸コース	就職 (運輸業)	運転手になる目標は中学校時代からでそこから何も変わっていません。	日本一のトレーラー運転手を目指します。	中学生の頃から
Fさん	生産科学科 園芸コース	就職 (農業)	農業関係の仕事に就きたいと考えています。	具体的では無いけど、ワイン関係の職につきたい。	2年生に入ってから
Gさん	生産科学科 馬事コース	進学 (獣医師課程)	地元で馬専門の獣医がほとんどおらずどうにかしていかなければと思っています。将来の夢を実現させるために大学進学が必須です。	馬専門の獣医師です。	大学進学は高校1年生の時、第一希望を決めたのは高校2年の時です。
Hさん	生産科学科 馬事コース	未定	進学するか就職するかたくさん選択肢があるし、自分でも決めかねています。	現在明確には決まっていませんが就職をするなら馬関係、進学をするなら馬以外の業界の方に行きたいと思っています。	
Iさん	生産科学科 馬事コース	就職	早くから馬関係の仕事に就きたいと思っています。	JRA厩務員です。	決めた時期は高校1年生の冬です。

表11 インタビュー調査の結果(2学年)

2学年に対するインタビュー調査の概要は、表11のとおりである。次にインタビュー調査によって得られた回答をまとめる。回答をまとめるにあたり、次のテーマ、項目を設定した。

テーマ	項目
能力や考え方に関する こと	(1) 高校入学時の自分と比較するとどんな力が伸びたように思いますか？
	(2) 普段の学校生活ではどんなことに充実感を感じていますか？
	(3) 高校生の時に伸ばしたいこと、しておきたいことはなんですか？
マイスター・ハイスクール事業との関わり	(4) マイスター・ハイスクール事業で、あなたの進路選択に対して影響の大きかった授業や会社・団体名、講師のお名前を教えてください。

表12 2学年のインタビュー調査における質問テーマ、項目

<能力や考え方に関すること>

(1) 高校入学時の自分と比較するとどんな力が伸びたように思いますか？

- 将来について深く考えるようになりました。自分の将来がどうなるのか、自分の将来を現実的に考えるようになりました。(Aさん)
- 農業クラブなどで発表することがたくさんあり、人前で堂々と話せるようになったと思います。(Bさん)
- 販売会や商談会などたくさんあちこちに行く機会をもらったので積極的にさまざまなことに挑戦する力が上がったと思います。(Cさん)
- 園芸班に入ったら人数が少ないこともあって、責任を持って物事に取り組むようになりました。様々な年代の人と関わることでコミュニケーションをとる力も伸びたと思います。(Dさん)
- いろんな機会があって人前で話せるようになってきた。(Eさん)
- 様々な人とコミュニケーションをとる力は伸びました。(Fさん)
- 積極的に物事に取り組む姿勢が向上したと思います。また未知の世界であった農業高校に入学したことで新しい発見もありましたし、さまざまな物事の見方があることを知り、多方面から物事を捉えることができるようになりました。(Gさん)
- 下宿での生活では親がいない1人ですし、高校では中学校とは違って様々な実習があったりするので1人で考えて行動する力がつきました。(Hさん)
- 人前で発表する力です。静農は意見発表大会やその他の行事又授業等を通し積極的に発言のチャンスをいただけるため、そのおかげで人前で発表するのが苦にならなくなりました。(Iさん)

(2) 普段の学校生活ではどんなことに充実感を感じていますか？

- 農業クラブ執行部での活動や、部局活動に力を入れて取り組んでいます。また、農業クラブの大

会にたくさん取り組んでいます。(Aさん)

- 友達と一緒にいる時です。(Bさん)
- 大会に参加することや、執行部で行事の準備を行うなどの農業クラブの活動です。(Cさん)
- 園芸班の活動で同じ班の同級生と一緒にいろんな活動をしたり、先生方としゃべったりするのがほどよい距離感もあってとても好きな時間です。(Dさん)
- 教室で勉強しているよりは実習しているときの方が楽しいです。(Eさん)
- 専門的な分野を学べることや、外部の人との交流が多く実施されていることです。(Fさん)
- 馬の授業です。馬の専門的な知識を身に付けたく、この高校に入学したので、馬について深く学べる授業に充実感を感じています。小学校の頃から馬が好きでしたが、馬の生態など専門的なことは全くわからなかったので、確実に新しい知識を身に付けることができているので楽しいです。将来にもつながるようなことをたくさん学べているので馬の授業はとても貴重な時間です。(Gさん)
- 道外から入学しているので季節による学校での生活の違いがあることや、様々な地域から来てる人も多いため色んな人と話せることです。(Hさん)
- 普段の授業もとても充実していますが特にマイスターハイスクール事業を通し仔馬の引き方や仔馬の調教の仕方などの授業では中々出来ない事まで行えるのでそこに関してはとても充実感を感じています。(Iさん)

(3) 高校生の時に伸ばしたいこと、しておきたいことはなんですか？

- 人の話を聞くこと。期限を守ること。暗記能力。(Aさん)
- 今以上にコミュニケーション力をあげること。(Bさん)
- 将来、仕事をするのに必要な力(学習面もだしマナーなども)を伸ばしたいと思っています。(Cさん)
- いろんな人と関わるのでコミュニケーション能力を高めることと色々な場面で人と接すると思うので適応力が必要かなと思います。就職試験に向けた一般常識対策も進めたいと思っています。(Dさん)
- あまり人としゃべらないのでコミュニケーションの力は高めたい。(Eさん)
- 選り好みをしたり、食わず嫌いしたりしないよう、どんなことにも興味を持てるようにしたいです。(Fさん)
- 高校で色々な方々に関わる機会があるので、積極的に気になったことを質問してお話を聞いて吸収できる力を伸ばしたいです。また、部活動に入っているので日頃から部活と勉強の両立に努めて勉強することを習慣付けたいです。(Gさん)
- 折角道外から来ているのもっとこの学校でしかできないようなことに挑戦してみたり、またその経験から学んで自分の進路に役立てていきたいです。なので1人で判断して行動する力に自信もてるようにしたいです。(Hさん)
- 更に人前で発表する力を身に付けることと礼儀を学ぶ事です。(Iさん)

<マイスター・ハイスクール事業との関わり>

(4) マイスター・ハイスクール事業で、あなたの進路選択に対して影響の大きかった授業や会社や団体名、講師のお名前を教えてください。

- 国分北海道株式会社様の講演を聞きこの会社をみてみたい！と、とても引かれました。女性でも働きやすい会社で元々裏で行う仕事(表にはでないで、営業とかではないこと)、卸売業に就いてみたいと思っていたので、マイスターハイスクールで実際に企業の話聞きより興味がわきましたし、とても雰囲気のいい会社だと思いました。(Aさん)
- 食品表示について講義して下さった国分北海道の方。(Bさん)
- 東京での販売会や商談会など学校生活だけではできない経験をたくさんして、自分の視野を広げられたと思います。(Cさん)
- 1年生の時に講演してもらった角倉さんの姿がとても印象的でした。女性でも農業経営をしたり、地域にいろんな働きかけをしていてスゴイと思いました。他にもいろんな方からお話を聞く中で自分の思考が変わったり、憧れや目標が明確になったりしましたし、知っている職業の幅も広がりました。(Dさん)
- あまり影響を受けたようには思わないが、専門の方はやはり知識の量がスゴイと思った。(Eさん)
- 農業の視点で世界の問題などを知る機会が多いので、もっとこう出来たらなとか自分なりに考えられるようになった。(Fさん)
- 中西先生は海外も飛び回っていて獣医師として活躍しているので、私の将来やってみみたいことをやられていて、お話を聞く機会が多くあり、とても刺激を受けました。大学で悩んでいる時もここはどう？、この仕事はどう？などといくつか候補を挙げて下さったので、より現実的に将来のことを考えるきっかけにもなりましたし、たくさんお世話になりました。さまざまな人を紹介して下さり、大学見学にもいけたのでとても感謝しています。マイスター・ハイスクールの授業では、

日高育成牧場に出向き実践的な授業と座学を行いました。学校ではできないような子馬の引き方や馴致など貴重な学習ができ、とてもいい体験になりました。また、マイスターハイスクールを通してさまざまな講師の先生のお話を聞いたことで、職業選択の視野も広がりました。(Gさん)

- 馬や農業だけのマイスター・ハイスクールではなく、様々な方々からの講義を聞いて知らなかった職業、業界や専門的なことを学ぶことができ、今後の進路についてより深く考えて行けるようになりました。(Hさん)
- マイスター・ハイスクール事業を通し馬関係の色々な方にアドバイスを聞いたり本校の産業実務家教員である中西先生に相談し、新たな進路実現案を出して貰いそれを参考に今は進路活動を行っています。(Iさん)

<まとめ>

進路選択に当たっては、「高校で学ぶうちに「なんか違うな」と感じるようになり」や「馬や農業だけのマイスターハイスクールではなく、様々な方々からの講義を聞いて知らなかった職業、業界や専門的なことを学ぶことができ・・・」などのコメントに代表されるように、進路選択の幅が広がったことが理解できた。

能力の面においては、「農業クラブなどで発表することがたくさんあり、人前で堂々と話せるようになった」、「新しい発見やさまざまな物事の見方があることを知り、多方面から物事を捉えることができるようになりました」というコメントに代表されるように、農業クラブ活動をはじめとした多様な学びが人前で話せるようになっていたり、ものの見方、考え方を広げていることが理解できた。

「園芸班の活動で同じ班の同級生と一緒にいろんな活動をしたり・・・」や、「馬の専門的な知識を身に付けたく、この高校に入学したので、馬について深く学べる授業に充実感を感じています」のコメントに代表されるように、専門的な学習活動に充実感を感じており、それらをとおしてコミュニケーション能力や積極性、礼儀など社会生活を見据えた能力の伸長を感じていることが理解できた。

本事業との関わりについては、「国分北海道株式会社様の講演を聞きこの会社をみてみたい!と、とても引かれました」や「マイスターハイスクールを通してさまざまな講師の先生のお話を聞いたことで、職業選択の視野も広がりました」のコメントやまた、馬事コースでは産業実務家教員との関わりについても影響力があった内容の記載があるように、生徒は専門的職業人材との関わりから進路選択やものの見方、考え方について影響を受けていることが理解できた。

3 インタビュー調査の結果(3学年)

対象者	学科 コース	進路 (内定先)	進路先を決めた経緯	進路を 決めた時期	進路の決め手
Jさん	食品科学科	進学 (4年制大学)	2年生の頃にマイスターでコープさっぽろ様の授業を受け、食品の将来商品開発をしてみたいと考えるようになり進路の方向性を決めました。企業への実習や校外のことにもよく参加していたため親に理解もしてもらいやすかったとも思います。	3年生の夏頃。	食品を詳しく学べるから。
Kさん	食品科学科	就職 (食品流通業)	最初はパティシエになりたかったけど、マイスターハイスクールを受けて違う形で食品に関わる仕事があることを知り、最終的に国分北海道へ進路決定をした。	3年生の夏頃。	マイスターで国分様の講義を聞いて、食品の仕事にも色々な形があると知り興味を持った。
Lさん	食品科学科	進学 (調理専門学校)	保護者とどこに行くか悩みました。姉が同じ学校に行っていて、話を聞いているのは大きかったです。	中学生の時。	小さい頃から料理が好きだったため。
Mさん	生産科学科 園芸コース	就職 (農業)	花には関心があって花農家になりたいと思っていた。迷いはあったけど色々な先生方に自分の思う方向に挑戦したらいいと言われたこと。	7月頃。	マイスター・ハイスクールなどで農家になりたいと思ったから。
Nさん	生産科学科 園芸コース	進学 (4年制大学)	大学の教授が講演してくれたことも何回かあり先生にオープンキャンパスに行ってみたらと言われたので行き決めた。	2年生後期。	オープンキャンパスに行き、ここなら自分がやりたいことができると思ったから。
Oさん	生産科学科 馬事コース	大学 (4年制大学)	高校卒業後は地元(東京)で馬術部のある学校に進学しようと思っていたし、馬の担当の先生の母校ということもありいろいろな情報をもらえたから。	3年生の8月頃。	大学馬術をしたかったから。

Pさん	生産科学科 馬事コース	就職 (新ひだか町職員)	はじめは乗馬クラブに就職する事しか考えていませんでした。しかし高校生活を過ごしていく中で、新ひだか町について学ぶ機会が多々設けられ、その中で、馬を通して地域の方と交流を行ったことで、新ひだか町の為に働きたいという考え方に変わっていきました。馬に関する事にこだわるのではなく、馬以外の形でも身に付けた力を発揮して頑張っていきたいと考えています。	高校2年生の終わり頃から、3年生のはじめにかけての時期です。	高校生活3年間で成長した私が、新ひだか町を支える一員として努めていきたいと考えたためです。
-----	----------------	-----------------	---	--------------------------------	---

表13 インタビュー調査の結果(3学年)

3学年に対するインタビュー調査の概要は、表13のとおりである。次にインタビュー調査によって得られた回答をまとめる。回答をまとめるにあたり、次のテーマ、項目を設定した。

テーマ	項目
能力や考え方に関する事	(1) 以前(高校入学当時)の自分と比較してどんな能力が伸びたと思うか。
	(2) 以前(高校入学当時)の自分と比較して進路に対する考え方はどのような変化があったか。
マイスター・ハイスクール事業との関わり	(3) マイスター・ハイスクール事業が自分の進路決定にどのように影響したか。
	(4) マイスター・ハイスクール事業で、あなたの進路選択に対して影響の大きかった授業や会社や団体名、講師のお名前を教えてください。

表14 インタビュー調査における質問テーマ、項目(3学年)

<能力や考え方に関する事>

- (1) 以前(高校入学当時)の自分と比較してどんな能力が伸びたと思うか。
- 前向きになった。友達と一緒に何かやることが出来るようになった。(Jさん)
 - 人と話す力と自分から発言する力が伸びたと思います。(Kさん)
 - 仕事の要領がよくなってコミュニケーション能力など社会に出た時に役立つことを多く身に付けることができました。(Lさん)
 - 人前で話したりすることができるようになったことや、仲間達と協力して作業したりできるようになったこと。(Mさん)
 - コミュニケーション能力や主体性、社会の中で人と関わったりすることの能力が全体的にあがったと思う。(Nさん)
 - 周りに何かを伝える力、表現力、部活や寮生活での協調性、馬を扱う力、筋力。(Oさん)
 - 周りを見て今自分が何をすれば良いのか考える力、チャンスに敏感になる力(自分が挑戦できることであれば、未経験でも挑戦する)、積極性(講義や授業、部活動で少しでも気になることがあれば納得するまで質問するなど)、人と上手に接する力、指示を受けなくても自分から動いて提案をしたりする力(例えば放送局で、全て自分から企画を出したなど)、礼儀(当たり前の挨拶を元氣よく・誰にでもするなど)。(Pさん)
- (2) 以前(高校入学当時)の自分と比較して進路に対する考え方はどのような変化があったか。
- 確実に続けて行ける場所で自分の目標にあっているかを一番に考えたこと。(Jさん)
 - パティシエになりたいと思って入学したけど、進路活動や具体的に自分の将来を考えた時に現実的に考えなければならないところなども考えられるようになった。(Kさん)
 - 食品業界の方々と関わる機会が多い中でより進路実現への意欲が高まった。(Lさん)
 - 場所や給料など細かいところを考えるようになったこと。(Mさん)
 - 当初は行きやすい大学とか都会に近い大学に行こうと思っていたが今は自分のやりたいことや将来自分の夢に最も近づく大学に行きたいと思った。(Nさん)
 - 最初は就職も考えてたけど部活とか、外部での活動を通して、社会に出る前にもっと経験をつんでおきたいと思って大学進学を考えるようになった。(Oさん)
 - 入学当時は、静農に馬を学びに移住までして入学して来た為、馬に一直線でした。馬だけは真面目にやろう、将来良いホースマンになることだけを考えて、静農で過ごしていました。その頃から乗馬クラブに就職すると決めていました。しかし、進路を決める時期になると、馬はもちろんですが馬以外の経験も多く積んで来たことで、自分に色々な可能性が生まれて、馬一点ではなく柔軟に将来について考えるようになっていきました。先生方にも、「あなたはこういうのが向いているよ」

など、大人から見た私についての意見をいただいたりしました。そうして今では、「馬に関わる仕事がしたい」と強く思う気持ちは無く、成長できたこの新ひだか町で、新ひだか町を支える一員として働いて頑張っていきたい、まだまだ成長していきたいと思っています。マイスターハイスクールが行われている時期に静農で過ごすことが出来たことが、私にとって大きな財産であり、得たものも多く、本当に幸運でありがたいことだと心から思っています。3年間でこんなに自分を変えることが出来て、嬉しいです。(Pさん)

<マイスター・ハイスクール事業との関わり>

(3) マイスター・ハイスクール事業が自分の進路決定にどのように影響したか。

- 最初は美術系の進路だったのですが、マイスターの授業、コープさんや、国分北海道さんの授業で食品業界の面白さや安定性を理解し、そうした企業のお話を聞き食品の業界で働いていきたいと考えるようになりました。(Jさん)
- マイスターハイスクールの授業でたくさんお世話になった会社に就職できました。実際に進路が決まったということでは、とても影響が大きかったし、マイスターがなかったらこのような進路にはならなかったと思います。(Kさん)
- マイスターハイスクールを通してたくさんの企業の方とコミュニケーションなどができ、その中で進路実現後の将来まで深く考えることが出来ました。(Lさん)
- 自分のやりたいことを見つけるキッカケになった。(Mさん)
- 自分が農業経営者になりたいと思ったことも、大学を決めたこともマイスターがきっかけなのでとても影響は大きかったと思います。(Nさん)
- 馬に関わるいろんな職種などを見ることができたので自分に最適な職種や役割を見つけることが出来たと思います。(Oさん)
- 「馬」と一言と言っても、「馬」の世界は本当に広くて深いんだと学びました。講義で馬についての学びを深めたり、馬とコミュニケーションを取る技術についての実習も行いましたが、何度も何度も馬の世界の奥深さと広さを実感しました。競馬の1レースを行うにも、色々な場所で多くの人がたくさんの時間をかけて、その1レースのために準備をしていることを学びました。そして静農で経験できて良かったのが、馬以外の講義も聞くことが出来た事です。環境についてや新ひだか町について、外国との交流についてなど、馬以外でも色々な視点で農業を学ぶことが出来ました。一つだけに捕らわれてはいけない。大事なものは上辺だけでは分からない、もっと奥深くにある。マイスターハイスクール事業を通して、全体的にそのようなことを感じました。私が進路決定をする際も、はじめは「馬が好き」で静農に入って馬を学んで、乗馬クラブに就職するという一本の道しか見ていませんでしたが、3年間静農で過ごし、色々な形で経験を重ねたことで、たくさんの可能性の道みたいなものが見えてきました。好きで馬の仕事なら続けられそうだからという上辺だけの理由で進路決定するのではなく、3年間で色々な道を見つけて、身につけた力を活かす方向で進路決定出来て本当に良かったです。(Pさん)

(4) マイスター・ハイスクール事業で、あなたの進路選択に対して影響の大きかった授業や会社や団体名、講師のお名前を教えてください。

- コープさっぽろさん、国分北海道さん。(Jさん)
- 国分北海道株式会社。(Kさん)
- 国分北海道の管理栄養士、プロジェクトでお世話になった南華園の佐々木さん。(Lさん)
- ユイメ株式会社との授業で様々な農業者の方や農業経営の種類や方法を学べたこと。(Mさん)
- Rose laboの田中あやかさんはとても影響が大きかった。東京農業大学の小川先生、Jumps様。(Nさん)
- 普段の中西先生の授業で、実はこんな仕事もあるっていうことをたくさん聞いて視野が広がったこと。(Oさん)
- 酪農について講義して下さった角倉さんの、「パッション」というフレーズがとても印象的ですし、JRAで自分達が育てている仔馬とは違う仔馬の曳馬をさせていただいて、違いを感じたことも印象深いです。また、札幌競馬場で馬が走りやすい芝の構造や、観客に楽しんでもらう工夫を知ったり、アイルランドなど外国の馬産業について学び、日本もここは真似するべきではないのかなと考えたりすることが出来ました。競馬や外国への見方が大きく変わりました。外国は一切興味が無かったが、その一つの講義で外国の違う馬産業ももっと知りたくなり、考え方がほぼ180度変わったと思います。しかし、やはり1番私にとって大きな存在なのが中西先生です。中西先生には何から何まで本当にお世話になりました。獣医ということで馬の予防注射を経験できたり、怪我をした時にすぐに治療をしてくださり、原因から治療法までいつでも丁寧に説明していただきました。部活動でも、お忙しい中指導して下さい、基本である乗る姿勢から変えていただき、励ましの言葉やアドバイス、指摘など本当に数え切れない多くのことを教えていただきました。進路についても一緒に真剣に考えてくださり、新ひだか町職員になることも勧めてくださりました。「もし受からなかったらまた一緒に考えるから、何も考えずに目の前のことだけ考えてれば良い」と、力強い言葉をもらうことも多々ありました。中西先生が静農にいてくださる時期に自分が在学していることが、本当に幸運だと思っています。(Pさん)

<まとめ>

進路選択に当たっては、「2年生の頃にマイスターでコープさっぽろ様の授業を受け、食品の将来商品開発をしてみたい」、「大学の教授が講演してくれたことも何回かあり・・・」というコメントに代表されるように、専門的な知識や技能を有する専門的職業人材との関わりなどで職業理解を深め、進路決定に至ったことが理解できた。また、「新ひだか町について学ぶ機会が多々設けられたり、その中で馬を通して地域の方と交流を行ったことで、新ひだか町の為に働きたいという考え方に変わっていきました。馬に関することにはこだわりのではなく、馬以外の形でも身につけた力を発揮して頑張っていきたいと考えています」というコメントのように学校での学びが地域の理解と地域への貢献につながった事例があった。

能力の面においては、「仕事の要領がよくなってコミュニケーション能力など社会に出た時に役立つことを多く身に付けることができた」、「コミュニケーション能力や主体性、社会の中で人と関わったりすることの能力が全体的にあがったと思う」というコメントに代表されるように、コミュニケーション能力や主体性や協調性などの向上を実感していることが理解できた。

本事業との関わりについてまとめると、「マイスター・ハイスクールを通してたくさんの企業の方とコミュニケーションなどができ、その中で進路実現後の将来まで深く考えることが出来ました」や「自分が農業経営者になりたいと思ったことも、大学を決めたこともマイスターがきっかけなのでとも影響は大きかったと思います」のコメントにあるように専門的職業人材との関わりが生徒の進路選択に直接に影響を与えている様子が理解できた。

また、企業名や講師名がより具体的であるという点では、2年生と差があった。

さらに、馬事コースにおいては、「普段の中西先生の授業で、実はこんな仕事もあるっていうなことをたくさん聞いて視野が広がったこと」、「中西先生が静農にいてくださる時期に自分が在学していることが、本当に幸運だと思っています。」というコメントにあるように、産業実務家教員との関わりが、生徒の進路選択や学び方に大きく影響を与えていることが理解できた。

4 インタビュー調査の結果(令和4年度卒業生)

対象者	学科コース	卒業時の内定先	現在の職場、学校	進路先を決めた経緯
Qさん	食品科学科	専門学校 (調理)	専門学校 (調理)	生徒や先生同士の距離が近く、それぞれの生徒にあった就職先の話し合いができるところを重視。
Rさん	食品科学科	就職 (畜産サービス)	就職 (畜産サービス)	2年生の時に担当の先生からそのような職種がある事を教えてもらった。3年生の時に実際に職場を経験し、安心して決めることができた
Sさん	生産科学科 園芸コース	進学 (農業大学校)	進学 (農業大学校)	2年の時に担任の先生と「馬の方の進路に行きたい気持ちあまりない」という相談をした時に、「じゃあ野菜とかの方は？」と提案していただきました。
Tさん	生産科学科 馬事コース	就職 (乗馬クラブ)	就職 (乗馬クラブ)	デュアル派遣実習や乗馬クラブでの研修を通して実際の雰囲気や仕事の流れなどを見て決めた。
Uさん	生産科学科 馬事コース	就職 (軽種馬生産牧場)	就職 (軽種馬生産牧場)	特に悩んでないけど、親にはいろんな牧場を見てから決めれば？って言われたけどデュアル派遣実習で行ってすぐ決めた。

表15 インタビュー調査の概要(卒業生)

卒業生に対するインタビュー調査の概要は、表15のとおりである。次にインタビュー調査によって得られた回答をまとめる。回答をまとめるにあたり、次のテーマ、項目を設定した。

テーマ	項目
能力や考え方に関する事	(1) 現在の進学先や就職先において、高校時代に学んだことが生かされていると感じることにはどのようなことがあるか。
	(2) 高校生時代と比較して、仕事や勉強をする上でどんな力が伸びたと思うか。
	(3) 高校時代に伸ばしておくべきだったと感じることは何か。
	(4) 夢や目標の実現、キャリアアップのためにこれから必要なことは何か。

マイスター・ハイスクール事業との関わり	(5) マイスター・ハイスクール事業の2年間で学んだことは、現在のあなたにどのように活かされていますか。
	(6) 地域のリーダーになったり、イノベーターとして農業や地域産業をよりよい方向に改革していくためには、高校時代にどのようなことを勉強したり、経験しておくべきだと思うか。

表16 インタビュー調査における質問テーマ、項目(卒業生)

<能力や考え方に関すること>

- (1) 現在の進学先や就職先において、高校時代に学んだことが活かされていると感じることにはどのようなことがあるか
- 食品学、微生物利用はこれからある国試にも繋がる内容で、専門学校ではより詳しく学んでいます。選択実習は専門学校でもあるインターンにつながっています。(Qさん)
 - 礼儀、挨拶 人とのコミュニケーション。(Rさん)
 - マイスターで話を聞いたことのある人が講義の内容で紹介された。例えば酪農家の角倉さん(マドリン)などいるんなどころにつながっていることがよくわかった。作物は違うものの、実習でならった技術を引き続きよく使っている。(Sさん)
 - 馬の取り扱いや、管理方法など沢山ありすぎて書き切れません。部活でも厳しく指導されてきた挨拶、返事なども指導を受けていてよかったですと思います。(Tさん)
 - インターンシップとデュアル派遣実習です。就職した後に仕事の流れをつかみやすかったし従業員の人も知っている人なので人間関係は全然気にならなくてよかったですと思います。(Uさん)
- (2) 高校生時代と比較して、仕事や勉強をする上でどんな力が伸びたと思うか
- やりたいことということもあって、各科目集中して受けれています。作る技術ももちろん伸びていますが、見たもの、聞いたものを即吸収する力が1番伸びてると思います。(Qさん)
 - 自分で考え、その場面にあった行動をできるようになった。メンタル面でも学生時代の時とは違い一社会人、成人として割り切ることが出来るようになった。気持ちに余裕が出来た。(Rさん)
 - 自主的に問題に取り組む力が伸びたように感じる。授業が終わったあとも手を動かすことが出来るようになった。(Sさん)
 - 1つの問題を追求するようになった。お客様に乗馬を教える時にしっかりと納得のいく説明が出来るようになるため。(Tさん)
 - 周りの状況を見るようになったこと、先のことを考えるようになったこと、馬の知識と技術を積極的に学ぼうとしているところ。(Uさん)
- (3) 高校時代に伸ばしておくべきだったと感じることは何か。
- 人をまとめられる力と、説明するプレゼン力をもっと伸ばしておけば良かったなと思った。(Qさん)
 - もっと自分の行動に自信を持てるようにしておくべきだった。(Rさん)
 - 一見自分に関係がなさそうでも、質問などを積極的にして知識の深堀りをした方が良かったと感じた。(Sさん)
 - まず騎乗技術です。自分が乗れてないとお客様に教えられませんから。次に会話術です。色々なお客様がいるからその人それぞれみんなが楽しめる会話術を身につけておけば良かったと思います。そして英語力というか英会話力です。海外からのお客様も沢山増えてきたので、簡単な英語だけでも言えるように、説明できるようになりたいと思っています。(Tさん)
 - 特にないけど、馬術部に入ったらもっと早く馬に乗ってたと思う時もあります。ですが競走馬に乗った時に上手く乗れるかはその人次第だとも思います。(Uさん)
- (4) 夢や目標の実現、キャリアアップのためにこれから必要なことは何か。
- 技術と知識、デザイン性が必要だと思います。技術知識は不特定多数の人に食べてもらうものなので衛生面の学習が必要だと思います。デザイン性は北海道や、日本だけにとどまらず世界のお菓子を見るなどの世界を知ることでキャリアアップ出来ると思います。(Qさん)
 - 挑戦すること。挑戦しなければ何も始まらないし、たとえ失敗したとしてもそれがプラスになる事もあるので失敗を恐れずに挑戦し続ける事。(Rさん)
 - 能動的に動くこと、締切に追われてなくても先のことを考えて行動すること、失敗を怖がらないこと。(Sさん)
 - 騎乗技術を上げること。お客様の満足度を高めつつ自分の技術向上も忘れず取り組むことが出来れば、お客様の目標となれる存在になれるためです。(Tさん)
 - 馬に乗る技術。(Uさん)

<マイスター・ハイスクール事業との関わり>

- (5) マイスター・ハイスクール事業の2年間で学んだことは、現在のあなたにどのように活かされているか。
- 商品開発では商品の考え方、P D C Aサイクルを回すことを専門学校の販売実習などに活かせてます。(Qさん)
 - 色々な企業を見てどう成功したのか知ることにより自分の行動の選択肢を広げられた。(Rさん)
 - 知識の引き出しが増え、プロジェクトにて直面した問題に対する視野が広がったように感じる。(Sさん)
 - 日高育成牧場で学んだ、ナチュラルホースマンシップによる馬の扱い方。馬の曳き方、管理方法。馬を扱ったり、乗ったりしますし、教えなければいけないので、教えてもらった経験はとても生きています。(Tさん)
 - わからない。(Uさん)
- (6) 地域のリーダーや、イノベーターとして農業や地域産業をよりよい方向に改革していくためには、高校時代にどのようなことを勉強したり、経験したりしておくべきだと思うか。
- 学校だけにとどまらないで現地を知ることがすごく大事だと思いました。自分も高校で実習に行くと、専門学校でもインターンや、その業界に触れてわかったこと、経験になったことがたくさんありました。なので高校生も農業分野、地域産業についてもっと触れて、地域の人と話をするなどの時間を取れば人の声がなにかのアイデアなどにも繋がると思います。(Qさん)
 - もっと地元の特産物などを知ったり、農家に行くと栽培などを体験しもっと知る必要がある。(Rさん)
 - 自分がのめり込めるものを見つけるために、とにかく何でもかんでも手をつけてみたらいいと思う。すぐにやめるものもたくさんあると思うけど、その中でも興味を持って学び続けられれば自分の出来ることやりたいことが明確になると思うので。(Sさん)
 - 現在の地域の課題、問題点をしっかり把握しておく事。その世界の基礎基本は最低限身につけておくこと。見るだけ聞くだけでなく、実際に体験すること。(Tさん)
 - 英語とかを話せたら外国人と会話ができて楽かもしれない。そういう場面がありますし。自分にとって役だったデュアル派遣実習は日数を増やしたりどんどん参加してもらった方がいいと思う。(Uさん)

<まとめ>

卒業後の進路について、今回調査に協力した5名の卒業生は、それぞれ卒業時と同じ進学先、もしくは就職先に在籍していた。また、聞き取りの様子からそれぞれ充実した様子で取り組んでいる様子が理解できた。

能力面についてみると、「食品学、微生物利用はこれからある国試にも繋がる内容で、専門学校ではより詳しく学んでいます。」「礼儀、挨拶 人とのコミュニケーション」「インターンシップとデュアル派遣実習です。就職した後に仕事の流れをつかみやすかったし従業員の人も知っている人なので人間関係は全然気にならなくてよかったと思います」というコメントに代表されるように、学校での学びや部活動などを含めた諸活動で身につけたことが、卒業後も活かされていることが理解できた。また、「自主的に問題に取り組む力が増えたように感じる。」というコメントに代表されるように、自ら積極的に学習、業務上の課題に向き合っており取り組んでいることが理解できた。さらに、高校時代に伸ばしておけば良かったと思うことについては、「色々なお客様がいるからその人それぞれみんなが楽しめる会話術を身につけておけばよかったと思います。」というコメントに代表されるように、対人関係におけるスキルについて課題を感じていることが理解できた。「海外からのお客様も沢山増えてきたので、簡単な英語だけでも言えるように、説明できるようにになりたい」というコメントがあるように、海外からの来訪者に対する語学スキルについて課題を感じる点については、国際化が進む馬産地ならではの捉えることができた。

本事業との関わりについては、学校や職種が様々であることから、共通の項目が役立つと言うことはないようであるが、「知識の引き出しが増え、プロジェクトにて直面した問題に対する視野が広がった」というコメントにあるように、考え方や視野であったり技術が役立つなど、本事業における専門的な知識技能を持つ職業人材との関わりが大きく影響していることが理解できた。地域のリーダーやイノベーターとなるために高校時代に必要なものとして、「現在の地域の課題、問題点をしっかり把握しておく事。」というコメントに代表されるように、視察や実習など様々な形で地域の状況や課題を把握することの重要性を実感していることが理解できた。

第5節 教職員のアンケート調査

1 マイスター・ハイスクールビジョンの進捗状況に関する調査

(1) マイスター・ハイスクールビジョンの進捗状況に関する調査の方法

本校における人材育成計画の概要として定めたマイスター・ハイスクールビジョンが、どの程度取り組まれているか、またどの程度の達成されたかを知るため、今年度の12月に、本校の教職員を対象にアンケート調査を行った。

アンケートの対象は、表12のとおりである。アンケートは本校で定めたマイスター・ハイスクールビジョンに対して、取組状況を「十分取り組まれている」を4、「取り組まれている」を3、「あまり取り組まれていない」を2、「取り組まれていない」を1として評価することとし、達成状況を「十分成果が上がっている」を4、「成果が上がっている」を3、「わずかに成果が上がっている」を2、「成果が上がっていない」を1として評価することとした。

アンケートの集計にはGoogleフォームを活用し、各評価段階の割合と評価の平均値を計算した。また、取組状況と達成状況の評価において評価者のコメントを記載し、参考とすることとした。

実施した教職員	教諭22名、実習担任教諭1名、指導実習助手1名、実習助手3名 事務主任・事務職員4名 合計31名
---------	---

表10 マイスター・ハイスクールビジョンアンケートの対象者

(2) マイスター・ハイスクールビジョンの進捗状況に関する調査結果

ア 取組状況

マイスター・ハイスクール ビジョン	評価者の割合 (%)				評価 平均
	十分取り組 まれている	取り組ま れている	あまり取り組 まれていない	取り組まれ ていない	
ア 高度熟練技能者による指導や企業等と連携した商品開発や軽種馬生産など、地域や産業界と連携した実践的・体験的な学習活動の推進及び学校設定科目の設定	54.5	45.5	0.0	0.0	3.55
イ プロジェクト学習を中核とした教科等横断的な地域課題探究型の学習活動の推進	54.5	40.9	4.5	0.0	3.50
ウ デュアルシステムを活用した地域の企業等と連携したキャリア教育の充実	54.5	45.5	0.0	0.0	3.55
エ 地域や小・中学校と連携した教育活動など、異年齢集団による活動の推進	27.3	63.6	9.1	0.0	3.18
オ オンライン授業や実験施設を利用した高度な実験・実習など大学等との連携・協働	45.5	50.0	4.5	0.0	3.41
カ 農業経営のグローバル化等に対応するためのeコマースの活用や英語教育の充実	36.4	59.1	4.5	0.0	3.32

表11 マイスター・ハイスクールビジョンに関する取組状況の調査結果

イ 達成状況

マイスター・ハイスクール ビジョン	評価者の割合 (%)				評価 平均
	十分成果があ がっている	成果があ がっている	わずかに成 果があが っている	成果があ がっていない	
ア 高度熟練技能者による指導や企業等と連携した商品開発や軽種馬生産など、地域や産業界と連携した実践的・体験的な学習活動の推進及び学校設定科目の設定	45.5	50.5	4.5	0.0	3.41
イ プロジェクト学習を中核とした教科等横断的な地域課題探究型の学習活動の推進	40.9	40.9	18.2	0.0	3.23

ウ デュアルシステムを活用した地域の企業等と連携したキャリア教育の充実	54.5	31.8	13.7	0.0	3.41
エ 地域や小・中学校と連携した教育活動など、異年齢集団による活動の推進	27.3	59.1	13.6	0.0	3.14
オ オンライン授業や実験施設を利用した高度な実験・実習など大学等との連携・協働	40.9	54.5	4.5	0.0	3.36
カ 農業経営のグローバル化等に対応するためのeコマースの活用や英語教育の充実	36.4	59.1	4.5	0.0	3.32

表12 マイスター・ハイスクールビジョンに関する達成状況の調査結果

マイスター・ハイスクールビジョンに関する取組状況の評価は表11、達成状況の評価は表12のとおりである。

取り組み状況の評価を見ると、全ての項目で評価平均が3.0を超える結果となった。

アの「高度熟練技能者による指導や企業等と連携した商品開発や軽種馬生産など、地域や産業界と連携した実践的・体験的な学習活動の推進及び学校設定科目の設定」とウの「デュアルシステムを活用した地域の企業等と連携したキャリア教育の充実」の2項目は評価平均が3.55と最も高かった。

イの「プロジェクト学習を中核とした教科等横断的な地域課題探究型の学習活動の推進」は評価平均が3.50と2番目に高かった。この3項目はいずれも「十分取り組まれている」と評価した教員の割合は54.5%、「取り組まれている」と評価した教員の割合も40%を超え、取り組み状況を比較的肯定的に評価した教員の割合は90%を超えた。

エの「地域や小・中学校と連携した教育活動など、異年齢集団による活動の推進」の項目は、評価平均が3.18と最も低く、「十分取り組まれている」と評価した教員の割合も27.3%と6項目中最も低かった。

次に達成状況の評価を見ると、全ての項目で評価平均が3.0を超える結果となった。

アの「高度熟練技能者による指導や企業等と連携した商品開発や軽種馬生産など、地域や産業界と連携した実践的・体験的な学習活動の推進及び学校設定科目の設定」とウの「デュアルシステムを活用した地域の企業等と連携したキャリア教育の充実」の2項目は評価平均3.41と最も高く、オの「オンライン授業や実験施設を利用した高度な実験・実習など大学等との連携・協働」の項目が3.36と2番目に高かった。

ウの「デュアルシステムを活用した地域の企業等と連携したキャリア教育の充実」について「十分に成果が上がっている」と評価した教員の割合は54.5%と最も多く、「成果が上がっている」と合わせると肯定的に評価した教員の割合が約86.4%となったが、「わずかに成果が上がっている」と評価した教員の割合も13.7%存在した。

アの「高度熟練技能者による指導や企業等と連携した商品開発や軽種馬生産など、地域や産業界と連携した実践的・体験的な学習活動」について、「十分に成果が上がっている」と評価した教員の割合は45.5%、「成果が上がっている」と評価した教員の割合50.0%と合わせると95%を超える教員が比較的肯定的に評価した。

エの「地域や小・中学校と連携した教育活動など、異年齢集団による活動の推進」の項目は、「十分に成果が上がっている」と評価した教員の割合は27.3%と6項目中最も低かった。「わずかに成果が上がっている」と評価した教員の割合が約13.6%となった。

2 生徒の変化に関する調査

(1) 生徒の変化に関する調査の方法

マイスター・ハイスクール事業の実施によって生徒がどのように変化してきたかを知るため、本校の教職員を対象にアンケート調査を行った。アンケートの対象は、「(1)マイスター・ハイスクールビジョンの進捗状況に関する調査」と同様とした。アンケートの集計にはグーグルフォームを活用し、食品科学科、生産科学科園芸コース、生産科学科馬事コース、英語教育に関する4つに分類した。

(2) 生徒の変化に関する調査結果

マイスター・ハイスクール事業をとおした生徒の変化について、教職員から多数の事例が報告された。大きく分類すると、進路意識に関するもの、学びの深まりに関するもの、生徒の行動の変化に関するものに分類できる。さらに、事業との関わりについて分類すると、外部講師による授業によるもの、プロジェクト学習によるもの、デュアル派遣実習によるものに大別できる。これらの分類が本校

におけるマイスター・ハイスクール事業を実施する上での重要なポイントとなると考えられた。続いて先生方が観察した生徒の変化の状況を抜粋してみている。

(3) 生徒の変化に関するコメント

ア 食品科学科

3年生Aさん

・1年生の頃は、他者と協調することが苦手であったが、3年生になるにつれ、協調性が高まった。

3年生Bさん

・1年生の頃は、特定の人との関わり合いのみであったが、3年生になるにつれ、人との関わり合いがうまくなった。

3年生Cさん

・講話や講演の中で、一生懸命に授業を聞く、理解する、発言することができるようになった。

3年生Dさん

・今まで前向きに登校できなかったが、2年生の後半より、授業や講習の内容が理解できるようになったのか、とても前向きに活動できるようになった。石屋様から求人を見てからの彼女は未来に進む事にとっても前向きになり、何事にも一生懸命取り組む努力ができるようになったと思います。ご縁はありませんでしたが、とても感謝しています。

3年生Eさん

・2年生のはじめの頃は「就職先はパティシエやアパレル関係の仕事がいいかな」と思っていたようだが、マイスター・ハイスクールの講師からの説明を聞くうちに、流通業に関心を持つようになり、最終的にはその会社から内定をもらった。講師から受けた影響を活かしているなど感じた。

3年生Fさん

・2年生のはじめの頃はチーズづくりは時間が長く面倒くさいという発言をしていたが、自分たちが作ったチーズを試食したり、販売したり改良したりしていくうちに面白いと感じるようになった。とにかくチーズの製造の際はキビキビ活動する。細かい理論などが定着しているわけではないが、本人が楽しんで製造を学んでいることが感じられるようになった。

2年生Gさん

・1年生の頃は特段前に出ることをしなかったが、2年生になるにつれ、積極性が増してきた。

2年生Hさん

・2年生になるにつれ、できなくても何事にも挑戦する姿勢が身についた。

2年生Iさん

・マイスターの授業を聞くうちに当初考えていた自分の思い描いていた職業と自分の関心とが違うのではないかと考えはじめている。最終的にどのような進路を選択するかは未定であるが、確実に視野が広がっていると感じられる。

イ 生産科学科園芸コースに関するコメント

3年生Jさん

・課題研究、生産者視察、新ひだか町農業実験センターの視察、新規就農者の講話をとおして、地域の花弁産業に興味を持つだけで無く、自分事として地域の課題を捉えるように成長し、将来は地域の花弁生産者になる希望を強く抱くようになった。

3年生Kさん

・2年次の進路希望は、農業が勉強したいという抽象的な思いで大学を希望していた。しかし、本事業で企業人の講演を聞き、六次産業化の経営者を目指すようになったことから、六次産業化を研究している大学に進学することを決めた。

3年生Lさん

・2年次の進路希望は農業が勉強したいという抽象的な思いで大学を希望していた。本事業で環境に配慮した農業（バイオ炭や緑肥）に興味を持ったため、大学で学ぶ目的を明確にすることができた。

3年生Mさん

・入学当初は他者の目や考え方にマイナスイメージを持っており、自己嫌悪するような発言が多々みられた。本事業の様々な場面で活躍する機会が増えことから、自信に満ちた学校生活を送っており、マイナスな発言はほとんど見られなくなった。

3年生園芸コース

・農業者から直接やりがい等について講義をいただいたことで、新規就農に興味を持った生徒が数名でてきた。そして、実際に農業系の大学に進学する生徒や農業経営者を目指して就職するなどの成果に繋がった。様々な大人とのコミュニケーションをとおして、自ら話しかけることが苦手だった生徒も、コミュニケーションが自然に取れるようになっている。

2年生園芸コース

- ・専門家から病害虫や根張り調査の方法を教わり、自分たちも実際に圃場で試してみたことで、主体的に研究に取り組む生徒が増加した。

ウ 生産科学科馬事コース

3年生Nさん

- ・1年生の時よりも物事に前向きになった。特に日高育成牧場での実習に積極的に参加していた。

3年生Oさん

- ・日高育成牧場の実習がきっかけとなって、それまで知らなかった馬の職業を実際に見てJRA職員に憧れを抱き、就職を叶えた。

2年生Pさん

- ・1年次に装蹄師という職業を知り、2年次の蹄の授業に真剣に取り組んでいる。放課後も削蹄があるときは自主的に見学している。

2年生馬コース全体

- ・馬事コースの生徒については、これまでは馬だけを学ぶことができたらいいというように見えていましたが、普通科目の授業を受けるなかでも内容に傾く姿など、馬と直接関わらないことをきちんと学ぼうとする姿が見られるようになって勉強に向かう姿勢が変化したと感じた。
- ・政治経済や、現代社会で好きなテーマを選んで調べさせるなどの活動をする、国際政治・経済に関係するテーマを選ぶ生徒が増えました。なぜそういったテーマを選んだのか聞くと、強い根拠はないが、日本のことを調べるより楽しそうということだったので、国際的な意識が身につけているのではないかと思います。

エ 英語科

生産科学科3年生Qさん

- ・1年生の頃は、人前で話すのが苦手な様子だったが、様々な活動をとおして、自信を持って発表をする事ができるようになった。

食品科学科3年生Rさん

- ・1年生の頃は、人前で話すのが苦手な様子だったが、様々な活動をとおして、コミュニケーション能力を向上させた。

オ その他

- ・今年度赴任したばかりのため、変化については見取することはできませんでしたが、以前行われた、産業教育フェア福井大会に向けて生徒にインタビューや取材をした際に、生徒自身が高校生活(マイスター・ハイスクール事業)をとおして、ものの見方や考え方が大きく変化していることを私自身が感じる事ができました。生徒に大きな影響を与えること、または変化するきっかけになることに関しては、マイスター・ハイスクール事業は有意義なものではないかと感じています。

3 教員自身のものの見方や考え方の変化に関する調査

(1) 教員自身のものの見方や考え方の変化に関する調査方法

マイスター・ハイスクール事業の実施が、教員自身のものの見方や考え方にもどのように影響しているかを知るため、事業最終年度となる令和5年の12月に、本校の教職員を対象にアンケート調査を行った。アンケートの対象は、「(1)マイスター・ハイスクールビジョンの進捗状況に関する調査」と同様とした。アンケートの質問項目は、北海道教育委員会が定める「北海道が求める教員像(北海道における教員育成指標)」を引用し、教職を担うに当たり必要となる素養に関する事項を5つ、教育又は保育の専門性に関する事項6つ、連携及び協働に関する事項を4つの全15項目について、「おおいに向上している」を4、「ある程度向上している」を3、「わずかに向上した」を2、「向上していない」を1として評価することとした。アンケートの集計にはGoogleフォームを活用し、各評価段階の割合と評価の平均値を計算した。また、評価者のコメントを記載し、参考とすることとした。

(2) 教員自身のものの見方や考え方の変化に関する調査結果

【教職を担うに当たり必要となる素養に関する事項】	評価者の割合(%)				評価平均
	おおいに向上した	ある程度向上した	わずかに向上した	向上していない	
1 使命感や責任感・倫理観	28.6	46.4	25.0	0.0	3.04
2 教育的愛情	39.3	46.4	14.3	0.0	3.25
3 総合的人間力	35.7	42.9	21.4	0.0	3.14
4 教職に対する強い情熱・人権意識	35.7	42.9	21.4	0.0	3.14

5	主体的に学び続ける姿勢	35.7	42.9	21.4	0.0	3.14
	【教育又は保育の専門性に関する事項】	おおいに向上した	ある程度向上した	わずかに向上した	向上していない	評価平均
6	子ども理解力	28.6	50.0	21.4	0.0	3.07
7	教科等や教職に関する専門的な知識・技能	42.9	35.7	21.4	0.0	3.21
実践的指導力	8 授業力	24.0	44.0	32.0	0.0	2.92
	9 生徒指導・進路指導力	28.6	46.4	25.0	0.0	3.04
	10 学級経営力	29.6	29.6	40.7	0.0	2.89
11	新たな教育課題への対応	29.6	37.0	33.3	0.0	2.96
	【連携及び協働に関する事項】	おおいに向上した	ある程度向上した	わずかに向上した	向上していない	評価平均
12	学校作りを担う一員としての自覚と協調性	25.0	50.0	25.0	0.0	3.00
13	組織的、協働的な課題対応・解決能力	32.1	46.4	21.4	0.0	3.11
14	地域等との連携・協働力	46.4	21.4	28.6	3.6	3.11
15	人材育成に貢献する力	28.6	39.3	32.1	0.0	2.96

表13 教員自身のものの見方や考え方の変化に関する調査結果

教員自身のものの見方や考え方の変化に関する調査結果は表13のとおりである。

評価の平均は2.89から3.25の間に分布した。全15項目についてみると2番「教育的愛情」に関する評価平均が3.25と最も高く、7番「教科等や教職に関する専門的な知識・技能」に関する評価平均が2番目に高い3.21となった。10番「学級経営力」に関する評価平均が2.89と最も低かった。

教職を担うに当たり必要となる素養に関する事項についてみると、全5項目全ての評価平均が3.00を超えている。項目別に見ると「教育的愛情」に関する評価は教員による評価平均が3.25と最も高く「おおいに向上した」と評価した教員の割合が39.3%、「ある程度向上した」と評価した教員の割合が46.4%であった。「使命感や責任感・倫理観」に関する評価は教員による評価平均が3.04と5項目中最も低く、「おおいに向上した」と評価した教員の割合が28.6%、「ある程度向上した」と評価した教員の割合が25.0%、「わずかに向上した」と評価した教員の割合が25.0%であった。

教育又は保育の専門性に関する事項についてみると、全6項目の評価平均が2.89から3.21の間に分布した。項目別に見ると7番「教科等や教職に関する専門的な知識・技能」に関する評価は教員による評価平均が3.21と最も高く「おおいに向上した」と評価した教員の割合が42.9%、「ある程度向上した」と評価した教員の割合が35.7%であった。「学級経営力」に関する評価は、教員による評価平均が2.89と全6項目中最も低く、「おおいに向上した」と評価した教員の割合が29.6%、「ある程度向上した」と評価した教員の割合が29.6%、「わずかに向上した」と評価した教員の割合が40.7%であった。

連携及び協働に関する事項についてみると、全4項目の評価平均が2.96から3.11の間に分布した。項目別に見ると13番「組織的、協働的な課題対応・解決能力」に関する評価は教員による評価平均が3.11と最も高く「おおいに向上した」と評価した教員の割合が32.1%、「ある程度向上した」と評価した教員の割合が46.4%であった。14番「地域等との連携・協働力」に関する評価も教員による評価平均が3.11と13番と並んで最も高く「おおいに向上した」と評価した教員の割合が46.4%、「ある程度向上した」と評価した教員の割合が21.4%であった。また「向上していない」と評価した教員の割合が3.6%であった。15番「人材育成に貢献する力」に関する評価は、教員による評価平均が2.96と全5項目中最も低く、「おおいに向上した」と評価した教員の割合が28.6%、「ある程度向上した」と評価した教員の割合が39.3%、「わずかに向上した」と評価した教員の割合が32.1%であった。

先生方のコメントを見ると、地域との連携や専門性の大切さを感じたコメントが多く寄せられていた。また、指定の3年目を終え、自走するに当たり業務整理の必要性や計画性について記載されたコメントもあった。

続いて先生方のコメントを抜粋してみていく。

(3) 教員自身のものの見方や考え方の変化に関するコメント

ア 使命感や倫理観

- ・子ども達はきっかけで多いに伸びることを改めて実感した(30代)
- ・本事業を経て、今の生徒達に何を教えたり、伝えたりしなければならないかと考え、積極的に情報収集を行うようになった。(30代)
- ・正しいことを学び、教える力をつける必要があると感じた。(30代)
- ・自身の専門分野以外の知見を広めることができ、進路指導等に活かすことができている。(30代)
- ・生徒の意欲が伝わるので、こちらとしても頑張らなければならないという気持ちが強くなりました。(20代)
- ・産業実務家教員や専門家の授業を間近でみて、授業の組み立て方が変化した。(30代)

イ 教育的愛情

- ・事業のレポートを見て、生徒が何が得意で何が不得意かを見極める力がついたらと感じる。(30代)
- ・生徒一人一人へのアプローチ方法を考えるようになった。(30代)
- ・生徒の良さの発見に繋がった。(30代)
- ・生徒の能力を色々な角度から見る大切さをこの2年で強く感じさせられました。(20代)
- ・生徒たちが熱心に取り組んでいる姿をみて、より能力を引き出してあげたいと感じるようになった。(20代)
- ・会社での教育と違い、さまざまな可能性を持った子どもの教育の為、一人一人の個性を注意深く観察し指導するよう心掛けるようになりました。(30代)

ウ 総合的人間力

- ・他者とのどのように仕掛けをつくるか、その方法を学ぶことができた(30代)
- ・地域との関わりの中で、地域が高校生に求めている資質や能力を聞く機会が多くなり、実社会を生きる生徒を育てるためにはどうすれば良いか考える機会が増えた。(30代)
- ・地域、保護者への協力を仰ぎ、お互いの利益となる事柄を考える必要がある(30代)
- ・様々な人との交流を通じて、いろんな価値観と出会えた。(30代)
- ・今まで自分が経験してきた事を活かせると強く感じました。(30代)

エ 教職に対する強い情熱・人権意識

- ・この3年間をとおして、生徒への愛情を降り注ぐことと、教職員の仕事量は比例することがわかった。人権意識の観点から、働き方改革を踏まえた業務量に整理する必要がある。(30代)
- ・本事業を経て、今の農業高校に求められていることが良く理解できるとともに、身につけた知識や技術、人との繋がりなどは他の農業高校へも普及して行かなければならないと感じている。(30代)
- ・誰にでも平等に、一人一人に合った学びを考える。(30代)
- ・農業科の先生方を中心に、生徒たちにとって有意義となるよう強い情熱を持って取り組んでいた。(30代)
- ・教育するということが楽しくなってきた。(20代)
- ・すべての子どもたちに平等に指導するよう心がけています。(30代)

オ 主体的に学び続ける姿勢

- ・様々な機関と連携したことにより、自分自身と社会の繋がりが増え、専門性の向上に繋がっている。(30代)
- ・本事業をとおして、今後の日本の農業を考える機会が多くなり、目まぐるしく変動する社会に対応する生徒を育てるためには、自ら積極的に研修に参加するなど、情報を収集しなければならないと常日頃から考えるようになった。また、事業でできた人の繋がりに研修の情報を耳にすることが多くなり、積極的に参加するようになった。(30代)
- ・さまざまな研修に参加したいと感じるようになった。(30代)
- ・最新の施設や研究成果等の学びを通じて、教育の必要性について改めて考えることができた。(30代)
- ・自分から積極的に資料を調べるようになりました。(30代)

カ 子ども理解力

- ・生徒一人一人の特性を捉え、必要な助言やアドバイスをしよう心がけているが、事業をとおして多方面の知識が身に付き、他の先生や生徒に助言やアドバイスすることが増えたと感じる。(30代)
- ・生徒一人一人のことを考えて対応するようになった。(30代)
- ・生徒の興味関心への理解に繋がった。(30代)
- ・積極的にコミュニケーションをとって一人一人の個性を把握しよう心がけています。(30代)

キ 教科等や教職に関する専門的な知識・技能

- ・3年間で身に付けられたスキルは大きい。(30代)
- ・本事業の講師から、専門的な知識や技術を教えていただき、実践している。自らのスキルアップを感じるとともに、更に自己研鑽に努めていきたい。(30代)
- ・専門技術を磨かなければと感じた。(30代)
- ・専門分野でない農業について知り、自分の科目と繋げて説明することが増えた。(30代)
- ・馬に関する知識を得る為、気になったことがあればすぐに調べるよう心がけている。(30代)

- ク 授業力
- ・授業力は向上したものの、指導案の作成はどれだけの教員がしたのか不明。(30代)
 - ・今までは、栽培技術にねらいを置くことが多かったが、生産者の背景や現状、そして課題を明確にした上で授業を展開するよう心がけている。(30代)
 - ・指導計画の作成時は学習導要領を見るようになった。(30代)
 - ・農業と関連付けた内容で授業展開するようになった。(30代)
 - ・目的をもって、何を学ばせるのかを意識して授業できるように日々なっています。(20代)
 - ・授業見学などをおして、様々な学びがあった。(20代)
 - ・授業に関しては自分から積極的に計画することはないが、内容の把握とサポートに徹しています。(30代)
- ケ 生徒指導・進路指導力
- ・生徒からの進路希望や理想像などを聞き、足りていない能力を見定めて指導する機会が多くなったと感じる。(30代)
 - ・1人ひとりの良さに気づけるようになった。(30代)
 - ・最新の技術や知識に触れ、これからの進路についても考える機会となった。(30代)
 - ・生徒の夢の実現に向けて、積極的に声かけしながら支援することができた。(20代)
 - ・少しでも進路や生徒指導の手助けができればと考えるようになった。(20代)
 - ・生徒を直接指導することはなかったが、必要があれば自分の経験してきた事を話し参考にしていただける用意はある。(30代)
- コ 学級経営力
- ・1つの目標に向かい創り上げていく授業が多く、生徒たちはこの資質能力が高まっているのではないかと。(30代)
 - ・生徒個人の特性や感性、得意、不得意な部分を加味した集団指導を意識するようになった。(30代)
 - ・一人ひとりの個性を活かした指導。(30代)
 - ・学級単位での指導経験はないが、必要であれば計画的に物事が進むように努める。(30代)
- サ 新たな教育課題への対応
- ・「主体的・対話的で深い学び」、「ICTを活用した指導力」は大いに向上したと感じている。一方で、特別支援教育や外国語教育については、取組内容が向上していないため、研修や教科横断的な学びの必要性を感じている。(30代)
 - ・幅広く学ぶことが必要。(30代)
- シ 学校づくりを担う一員としての自覚と協調性
- ・学校づくりには計画性が必要であり、その計画を早い段階で共有し、全体で1つの方向に向かわなければ、教職員の「やらされてる感」が生じることを改めて理解した。(30代)
 - ・学科長の立場として、学科の情報を積極的に取り入れ、学科長として必要な動きについてはある程度理解が向上していると感じる。ただし、相手の意図を理解し、意思疎通がとれているかは自らでは判断できない。(30代)
 - ・周りとの協力は必須。(30代)
 - ・学校教育のあり方について改めて考える機会となった。(30代)
 - ・以前より人と積極的なコミュニケーションをとるようになりました。(30代)
- ス 組織的、協働的な課題対応・解決能力
- ・勤務年数もあるが、学校や生徒の実情を俯瞰して見るようになり、他の教職員と積極的に関わり、協働で指導するよう心がけている。(30代)
 - ・様々な業務に周りが協力する雰囲気がある。(30代)
 - ・自分の役割を果たすことを心がけた。(30代)
 - ・自分の役割を理解し責任を果たすように努めています。(30代)
- セ 地域等との連携・協働力
- ・これからも地域との関わりを大切にしていくことが重要であると再認識した。(30代)
 - ・地域との関わりが生徒の深い学びや実社会へ出るための学びに繋がると考えられるようになり、積極的に地域とつながれるよう意識している。(30代)
 - ・学校では経験できないことを地域と連携し、経験することができた。(30代)
 - ・地域の力を借りることで、より深いものを見つけることができることを学んだ。(20代)
 - ・保護者や地域との関わりはないが、必要があれば積極的に連携していきます。(30代)
- ソ 人材育成に貢献する力
- ・他者のことを知る意識が芽生えないとなかなかこの力は身につかないのだと感じた(30代)
 - ・様々な業務があるなかで、業務の負荷がかかる時期を見定めたくうえで、他の教職員を支援するよう意識している。(30代)
 - ・周りを見て行動すること。(30代)
 - ・サポートに徹するように常に心がけています。(30代)

第6節 関係企業・団体のアンケート調査

1 関係企業・団体のアンケート調査方法

関係企業団体のアンケート調査については、マイスター・ハイスクール事業の伴走支援機関からマイスター・ハイスクール事業の評価のため依頼されたアンケートを本校においても活用した。アンケートを依頼する企業については、本校との関わり度合いや、指定終了後の取組などを見据えて選定した。このアンケートの評価結果を受け、本校のマイスター・ハイスクールCEOが対面で聞き取りを行った。

2 アンケートの結果

(1) 産業界と連携した教育活動が充実したのは、何に取り組んだことが要因だと思いますか。最も当てはまる項目を選んでください。(事業推進委員のみ、選択式)

最もあてはまる項目		2番目にあてはまる項目	
① 産業界他関係者一体となったカリキュラム刷新・実践	3名	⑦ 企業等での授業・実習を多数実施	3名
④ 企業の技術者や研究者等を教員として採用(産業実務家教員)し、授業・実習を実施	1名	① 産業界他関係者一体となったカリキュラム刷新・実践	1名
選択肢 ① 産業界他関係者一体となったカリキュラム刷新・実践 ② マイスター・ハイスクールビジョンの策定 ③ マイスター・ハイスクールCEOを企業等から指定し学校の管理職として配置 ④ 企業の技術者や研究者等を教員として採用(産業実務家教員)し、授業・実習を実施 ⑤ 運営委員会の設置 ⑥ 事業推進委員会の設置 ⑦ 企業等での授業・実習を多数実施 ⑧ 企業等の施設・設備の共同利用 ⑨ 専攻科の新規設置 ⑩ 高大連携の強化			

表14 産業界と連携した教育が充実した要因

(2) 本事業の意義や必要性について、どのような時に感じましたか。具体的な場面やエピソードで教えてください。(事業推進委員のみ、自由記述)

- ・本来の意義や必要性とは異なるかもしれないが、道内企業に就職したいという意思を持つ学生が出てきたときに、是非はともかく、自身の将来に係る意思を早期に持たせることができたと感じた。
- ・授業を担当し生徒と接したときに、多くの質問をする姿や真剣に取り組む姿を見て、生徒側が想像以上に産業のことを考えていることを知り、産業についての啓蒙普及の重要性を痛感した。産学一体となり、地域ぐるみで育成していく必要がある。
- ・高校生と地域事業者、関係団体等と連携し「静農ブランド」という特産品づくりに取り組む中で、生徒達の意識が前向きに変わっていくことを肌で感じられるようになりました。
- ・当社社員が講義をさせていただく場面や全校生徒に向けた講演等で三年間にわたり訪問させていただきました。生徒の皆様の意識の向上、働く事に対する理解など、その成長に触れる場面で強く感じました。また当社社員にとっても自社の企業価値向上に参画している実感を持つ場面となり有意義でした。

(3) 本事業を開始した当時を振り返ってご回答ください。あなたは、産業界と高校との連携の意義や必要性をどの程度感じていましたか。(事業推進委員、企業、関係団体共通、選択式)

選択肢	人数
とても感じていた	6名
少し感じていた	4名
選択肢 とても感じていた 少し感じていた あまり感じていなかった 感じていなかった	

表15 産業界と高校との連携の意義や必要性(事業開始当初)

(4) 現在、あなたは、産業界と高校との連携の意義や必要性をどの程度感じていますか。(事業推進委員、企業、関係団体共通、選択式)

選択肢	人数
とても感じている 少し感じている	9名 1名
選択肢 とても感じている 少し感じている あまり感じていない 感じていない	

表16 産業界と高校との連携の意義や必要性(現在)

(5) 本事業を推進するにあたり、あなたは学校内外の関係者と相談しながら協働的に進めることができたと思いますか。(事業推進委員のみ、選択式)

選択肢	人数
とてもそう思う 少しそう思う	3名 1名
選択肢 とてもそう思う 少しそう思う あまりそう思わない そう思わない	

表17 本事業推進における学校内外の関係者との協働

(6) 本事業を推進するにあたり、あなたは当事者意識を持って取り組むことができましたか。(事業推進委員、企業、関係団体共通、選択式)

選択肢	人数
できた 少しできた	9名 1名
選択肢 できた 少しできた あまりできなかった できなかった	

表18 本事業推進における当事者意識

(7) 産業界(企業)として、高校教育に関わることのメリットを感じていますか。(事業推進委員、企業、関係団体共通、選択式)

最もあてはまるもの		2番目にあてはまるもの		3番目にあてはまるもの	
④ 地域産業の発展を担う人材育成への貢献により、地域の企業としての社会的責任を果たすことができる	5名	① 地域人材の募集・採用活動への活用	3名	① 地域人材の募集・採用活動への活用	3名
① 地域人材の募集・採用活動への活用	2名	④ 地域産業の発展を担う人材育成への貢献により、地域の企業としての社会的責任を果たすことができる	3名	④ 地域産業の発展を担う人材育成への貢献により、地域の企業としての社会的責任を果たすことができる	2名
⑥ 関わった社員がより主体的に業務に取り組むようになるなど前向きな変化による社内活性化	1名	③ 若者のセンスや感覚を企業経営へ活用	2名	⑤ 関わった社員が高校生との接点を通じ、初心に戻った、頑張ろうと思うようになったなどのモチベーションの向上等	2名
⑧ 企業の地域における認知度向上	1名	⑧ 企業の地域における認知度向上	1名	⑥ 関わった社員がより主体的に業務に取り組むようになるなど前向きな変化による社内活性化	2名
⑨ 産業自体の魅力発信	1名	⑨ 産業自体の魅力発信	1名	⑩ その他	
選択肢 ①地域人材の募集・採用活動への活用 ②社内人材育成方針などの見直し ③若者のセンスや感覚を企業経営へ活用 ④地域産業の発展を担う人材育成への貢献により、地域の企業としての社会的責任を果たすことができる ⑤関わった社員が高校生との接点を通じ、初心に戻った、頑張ろうと思うようになったなどのモチベーションの向上等 ⑥関わった社員がより主体的に業務に取り組むようになるなど前向きな変化による社内活性化 ⑦他の企業との情報交換のきっかけとなる ⑧企業の地域における認知度向上 ⑨産業自体の魅力発信 ⑩その他					

※⑩その他のコメント

約3年間お世話になり、高校、農業専門学校、食品科学科カリキュラムがどのように進行し、生徒がどのように成長してい

くかを肌で感じる(時系列的に)ことができた。当社もマイスター・ハイスクール対象校以外にも高校生を対象とした「食育授業」などを実施していますが、実態を把握することができ、「食育授業」のカリキュラムの改良にも役立てることができており、高校(生)と同様に、日々努力を積み重ねる重要性を再認識した。

表19 産業界(企業)として、高校教育に関わることのメリット

(8) 高校教育に関わったことによって、ご自身の意識や行動になにか変化はありましたか。当てはまる項目をすべて選んでください。

選択肢	選択者数
③ 学校や高校生に以前より注目するようになった	8名
② 地域づくりへの関心が高まった	6名
① 地域の関係者とのコミュニケーションが増えた	5名
⑦ 高校生のがんばりを見て、自分もがんばりたいと思った	5名
⑧ 高校生の発想やアイデアに触れて刺激を受けた	5名
⑥ 当たり前のことを再度見つめ直す機会となった	1名
選択肢 ① 地域の関係者とのコミュニケーションが増えた ② 地域づくりへの関心が高まった ③ 学校や高校生に以前より注目するようになった ④ 企業内の若手社員への接し方が変わった ⑤ 物事を柔軟に考えられるようになった ⑥ 当たり前のことを再度見つめ直す機会となった ⑦ 高校生のがんばりを見て、自分もがんばりたいと思った ⑧ 高校生の発想やアイデアに触れて刺激を受けた ⑨ 特にない ⑩ その他	

表20 産業界(企業)として、高校教育に関わることのメリット

(9) 本事業について、自由にご意見をお書きください。(事業推進委員、企業、関係団体共通、自由記述式)

- ・生徒の意識の高まりもさることながら、外部と接することが多くなった担当の先生たちの物事のとらえ方や生徒への接し方などが変わってきているのだろうと推察している。生徒は流動資産だが先生は固定資産であり、短期的な成果よりも長期的に見た先生の意識・行動変容が結果的に教育の質の向上やマイスター・ハイスクールの自走化・生徒の素地の向上に繋がっていくものだろうと考えている。
- ・自走に向けた取り組みは地元企業の協力は必須。各企業が提供できる範囲での題材を持ち寄って支援してゆくことが必要で、受け皿となる学校側の制度や体制作りも必要となってくると思う。
- ・マイスター・ハイスクール事業により、生徒達が町内外の多くの企業や機関と関わり、幅広い視野を持つことにつながっていると思います。また、そこで活躍する多くの社会人と接することにより、ロールモデルを見出し、次代を担う人材育成に大きく寄与していると感じています。このモデル事業で築かれた相互協力体制を維持・発展させていくことが、この事業に関わった者としての責務だと考えています。
- ・民間企業にとって、地域貢献や産学官連携は責務だと考えております。今回の事業参画により、係らせていただいた高校生の企業理解が深まり、就職(24/4入社予定)にも結び付きました。マイスターハイスクール事業終了後もパートナーシップとして取組を継続したいと考えております。
- ・本事業の取組により、生徒達の将来像を具体化する足掛かりになることができれば成功だと思います。経験値を上げることが重要と思う。
- ・事業開始以前より専門性の高い教育を行っていたが本事業により、より専門性の高い教育を行うことが出来、教育内容が充実し、生徒の質も向上したと思われまます。事業終了後も地域、企業等と連携し教育の質の維持向上に努めてほしいと思います。
- ・このような機会は自ら能動的に作れないため有意義だと思います。
- ・マイスターハイスクール事業を通じて、生徒のみなさんが様々な事を学び成長している、最初は先生主体の授業が生徒主体に変わりつつあること、今までクラス内でも、あまり発言しなかった生徒が自ら料理コンテストに応募し大賞をとるなど積極的に行動できるようになった。また、本事業で一番苦労されたのは先生方で、企業との交渉、授業前の事前準備、予習と復習、企業へのアフターフォローなど生徒の数倍は努力され、自らのキャリアを膨らませている。また、3年事業であるため、事業終了を待たず次の赴任校へ異動された先生方も、マイスターハイスクールで培ったノウハウやコンネクションを継続され、更に良い方向に向かわれていると思います。
- ・企業側もマイスターハイスクール事業を通じて多くのものを学ばせていただき、win-winの関係に

なることができました。現在、喫緊の課題として、部活動の外部委託などが検討されていますが、学校、地域、産業界などが連携すべき活動の必要性が今後益々増えてくると思います。マイスター・ハイスクール事業は専門高校を対象としています。更に発展させ全中高校を対象とする連携事業の成功例として活用していただければと考えております。

- ・本事業は、高校生と産業界の両方にとって有意義な取り組みであると思った。高校生が積極的に取り組む姿勢が印象に残った。

(10) アンケート結果のまとめ

アンケートの結果は、(1)から(9)にまとめたとおりである。

(1)の質問から、「産業界と連携した教育活動が充実した要因」について10個ある選択肢の中から、① 産業界他関係者一体となったカリキュラム刷新・実践、④ 企業の技術者や研究者等を教員として採用(産業実務家教員)し、授業・実習を実施、⑦ 企業等での授業・実習を多数実施の3点があげられた。最もあてはまる項目と2番目にあてはまる項目を合わせてみると、① 産業界他関係者一体となったカリキュラム刷新・実践が最も多く選択された。いずれの項目も他の選択肢と比較すると、直接的に生徒に関わる選択肢が選択されていると理解することができた。

(2)の質問から、「生徒達の意識が前向きに変わっていく」「生徒の皆様の意識の向上、働く事に対する理解など、その成長に触れる場面」というコメントにあるように、講義や実習の指導をとおして直接生徒に接し、その変化が感じられた際に、本事業の意義や必要性を感じていると理解することができた。

(3)の質問から、多くの企業・団体等で連携の意義や必要性を感じていたことがわかる。(2)のコメントと併せてみると、連携の意義や必要性を理解はしていたものの、その効果については生徒に接して実際に野事業の進展とともに理解が深まってきていると考えることができた。

(4)、(5)、(6)の質問からも、企業や団体が本事業の意義や必要性を理解し、学校とともに主体的に取り組んでいただけたと理解できた。

(7)の質問から、最もあてはまるものとして、④の「地域の企業としての社会的責任」をあげる企業や団体が最も多かった。2番目にあてはまるもの、3番目にあてはまるものの中にも1番目、もしくは2番目にあげられている。全29回答中、④の回答が延べ10件となり、全ての回答者が同様に認識していることとなる。

最もあてはまる項目の2番目は①の「地域人材の募集・採用活動」となった。この回答は、2番目にあてはまるもの、3番目にあてはまるものでも最も多く回答されており、全29回答中、回答が8件となった。

こうした企業にとっての直接的なメリットに関する回答の他に、⑤の「関わった社員が高校生との接点を通じ、初心に戻った、頑張ろうと思うようになったなどのモチベーションの向上等」や⑥の「関わった社員がより主体的に業務に取り組むようになるなど前向きな変化による社内活性化」といった社員にとってよい影響があったことをメリットとして認識している回答が、延べ5件となった。また、⑨の「産業自体の魅力発信」のように産業界全体にとってメリットがあるとした回答もあった。

(8)の質問から、③の「学校や高校生に以前より注目するようになった」の回答が8名と最も多かった。⑦「高校生のがんばりを見て、自分もがんばりたいと思った」と⑧「高校生の発想やアイデアに触れて刺激を受けた」のように学校や高校生に関するものと合わせると全30件の回答中、18件の回答があった。

また、②「地域づくりへの関心が高まった」や①「地域の関係者とのコミュニケーションが増えた」のように直接高校生や学校とは別に地域との関わりに関する回答が11件あった。

(9)のコメントから、産業界と高校の連携の必要性、重要度が増してくることが実感されているほか、長期的な展望から、連携の推進により学校や教員の意識変革が教育水準の維持、向上、マイスター・ハイスクール事業指定終了後の自走に必要なものとして示めされていた。

3 関係企業、団体、自治体などへの聞き取り調査結果

(1) 企業からの意見

ア 3年間を通して感じていること

- ・生徒達の力は伸びている。農業高校と産業界が一緒の方向に向けるようになったのではないか。(雪印メグミルク)
- ・生徒、先生方の知識の幅が広がった・生徒の進路につながっていければ良い。(北海道経済連合会)

イ 高校と連携することの企業側のメリット

- ・若い社員が外部講師として生徒に説明する中で自分の会社の価値に気づき社会の役に立っていると認識できた。(国分北海道)
- ウ 人材育成への期待
- ・研究員のアドレスは退職まで変わらない。どこにいても長いつながりになれば良い。静内農業高校での人と人のつながりの輪が全道に広がれば良い(雪印メグミルク)
- エ 指定終了後の対応について
- ・本事業は学校と企業が連携していく入り口、今後も双方にとってメリットがあれば連携していき(国分北海道)
- (2) J A, 軽種馬関係団体への聞き取り調査結果
- ア 3年間をとおして感じていること
- ・担い手育成に関しては、本会理事長も危機感を持っており、今後も前向きに協力していく。馬産地での人材育成は重要。(J R A日高育成牧場)
- イ 団体におけるメリット
- ・若い職員が外部講師を担当することで、人に伝える力、そのために考えをまとめる、説明資料づくりをすることは職員のためになる。生徒に伝えることは将来の担い手の育成や確保に向けての対策となる。(J R A日高育成牧場)
- (3) 自治体への聞き取り調査結果
- ア 町内関係事業者の変化
- ・生徒の変化とともに、事業者と農高との関わりが強くなった。
- イ 担当職員の変化
- ・担当職員が生徒ともに商談会や販売会に出張。準備は大変であるが当初の「とまどい」から「自信」がついてきているよう。
- ウ 終了後の対応について
- ・農業高校に関わり、継続していくことの重要性を認識しその覚悟を感じている。
- (4) 知事部局への聞き取り結果
- ア 生徒の変化
- ・プロジェクトや意見発表の審査員をしてきているが、着眼点や発想の広がりが出てきた。先生と生徒でいい循環になっている。
- イ 先生の変化
- ・わからないことを聞かれることがあるが漠然としていない。聞かれ方の具体性が違ってきている。質疑の準備として栽培履歴や圃場のデータなどを持って質問している。
- ウ 職員の変化
- ・職員は農業高校はいろんな事をするんだな、いろんなことができるんだなと認識。関わりを持つことで仕事の裾野が広がりを持つものと考えてようになってきた。
- エ 関係性の維持について
- ・成果を期待していくため、人事異動で関係性が途切れることがないように、外部関係者と学校の間で必要性を共有する必要。

第7節 運営委員による評価

1 運営委員による評価の調査方法

運営委員による評価は、2月2日(金)に実施した第3回運営委員会開催後に行った。第3回運営委員会では、定量的目標と定性的目標の評価結果の説明、指定数量後の取組等を説明した。この説明の後、事業の内容に関する質問を5項目、教育と指導に関する設問を5項目、全体評価に関する質問を5項目の全部で15の質問を設定した。質問に対して「大いにそう思う」を4、「そう思う」を3、「あまりそう思わない」を2、「まったく思わない」を1として回答していただくこととした。アンケートの集計にあたっては、それぞれの質問に対する評価者の割合と、評価平均を算出した。

2 運営委員による評価結果

	質問項目	評価者の割合				評価平均
		大いに そう思う	そう思う	あまりそう 思わない	まったく 思わない	
事業の	地域の理解や郷土愛の醸成に関する教育、地域と連携した事業を行ったことは、生徒の将来(進路)に有意義である。	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4.00

内容	本事業は、校長をはじめ、マイスター・ハイスクールCEOを中心に組織的・計画的に運営されている。	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	3.67
事業の内容	生徒の変容を促す効果的な授業や講演などの機会が適切に設定されている。	66.7%	0.0%	33.3%	0.0%	3.33
	本事業は地域産業の課題解決の一助を担っている。	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	3.00
	本事業で育成された人材(生徒)は地域産業の持続的発展をけん引するイノベーターとして期待が持てる。	33.3%	0.0%	66.7%	0.0%	2.67
教育と指導についで	3年目の本事業は、事業計画に基づき適切かつ計画的に実践されている。	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	3.50
	本事業は各種検定試験対策(資格)に対する理解を深め、受験に挑戦する心身の醸成や受験につながっている。	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	3.00
	本事業で実施した授業や講演会などは、目指す人材育成に効果的である。	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	3.50
	本事業における自治体や産業界と一体・同期化した取組は、生徒の学習効果の充実につながっている。	83.3%	16.7%	0.0%	0.0%	3.83
	本事業における自治体や産業界と一体・同期化した取組は、教職員の意識改革につながっている。	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	3.50
全体評価	本事業を通じて、生徒の資質・能力が向上し、生徒の地域に対する意識の変容が見られた。	83.3%	16.7%	0.0%	0.0%	3.83
	本事業を通じて、地域住民及び保護者、関係機関などの地域課題への意識が変化した。	0.0%	83.3%	0.0%	16.7%	2.67
	本事業を通じて、教育課程の刷新の方向性が検討され、改善につながっている。	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	3.00
	本事業の運営委員会や事業推進委員会は効果的に機能した。	16.7%	83.3%	0.0%	0.0%	3.17
	本事業の内容や取組は、地域創生に寄与している。	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%	3.33

表21 運営委員による評価結果

運営委員からの評価は、表16のとおりとなった。全体の評価平均は2.67から4.00の範囲に分布した。全体をとおしてみると「地域の理解や郷土愛の醸成に関する教育、地域と連携した事業を行ったことは、生徒の将来(進路)に有意義である。」の評価平均が最も高く、「本事業で育成された人材(生徒)は地域産業の持続的発展をけん引するイノベーターとして期待が持てる。」と「本事業を通じて、地域住民及び保護者、関係機関などの地域課題への意識が変化した。」の2項目が最も低かった。

事業内容に関する評価項目について、「地域の理解や郷土愛の醸成に関する教育、地域と連携した事業を行ったことは、生徒の将来(進路)に有意義である。」の項目は評価平均が4.00と全15項目中最も高く、「大いにそう思う」と答えた運営委員の割合も100%であった。「本事業は、校長をはじめ、マイスター・ハイスクールCEOを中心に組織的・計画的に運営されている。」の項目は評価平均が3.67と事業内容の評価区分の中では2番目に高く「大いにそう思う」と答えた運営委員の割合が66.7%、「そう思う」と答えた運営委員の割合が33.3%となった。「本事業で育成された人材(生徒)は地域産業の持続

的發展をけん引するイノベーターとして期待が持てる。」の項目は評価平均が2.67と事業内用の区分中で最も低く、「大いにそう思う」と回答した運営委員の割合が33.3%であった一方、「あまりそう思わない」と評価した運営員の割合が66.7%であった。

教育と指導に関する項目については、5項目全てにおいて運営委員の評価平均が3.00を超える値であった。また、5項目全てにおいて運営委員が「大いにそう思う」、「そう思う」のいずれかで回答した。

「本事業における自治体や産業界と一体・同期化した取組は、生徒の学習効果の充実につながっている。」の項目は、運営委員の評価平均が3.83と5項目中最も高く、「大いにそう思う」と評価した運営委員の割合が83.3%であった。

「2年目の本事業は、事業計画に基づき適切かつ計画的に実践されている。」、「本事業で実施した授業や講演会などは、目指す人材育成に効果的である。」、「本事業における自治体や産業界と一体・同期化した取組は、教職員の意識改革につながっている。」の3項目は、運営委員の評価平均が3.50であり、「大いにそう思う」と評価した運営員が50%、「そう思う」と回答した運営委員が50%であった。「本事業は各種検定試験対策(資格)に対する理解を深め、受験に挑戦する心身の醸成や受験につながっている。」の項目は評価平均が3.00で教育と指導に関する5つの評価項目の中では最も低く、「そう思う」と評価した運営委員の割合が100.0%であった。

全体評価に関する項目については、「本事業を通じて、生徒の資質・能力が向上し、生徒の地域に対する意識の変容が見られた。」の項目が評価平均3.83と全体評価に関する評価項目の中では最も高く、「大いにそう思う」と評価した運営員の割合が83.3%、「そう思う」と評価した運営委員の割合が16.7%であった。「本事業を通じて、地域住民及び保護者、関係機関などの地域課題への意識が変化した。」の項目は評価平均2.67で全体評価5項目中最も低く、同時に全15の評価項目中でも最も低かった。「そう思う」と評価した運営員の割合が83.3%、「まったく思わない」と評価した運営委員の割合が16.7%であった。続いて運営委員によるコメントを見ていく。

3 運営委員によるコメント

- ・3年間貴重な機会をありがとうございました。直接現地で関わる機会は多くなかったのですが、これまでのアンケートなどから生徒さんの内面的な意識が、こちら側が期待している方向にかなり高まったのだと思います。それは、CEOはじめ、先生方、関係者の皆様のご尽力によるものだと実感しています。昨年4月にオンラインで話し方の講座をさせていただいた際には、画面越しではありましたが、生徒さんたちのとても楽しそうで前向きな姿を肌で感じることができました。
- ・勉強することは大事だと思いますが、一番大事なのは、なぜこの高校に来て、これからどうなりたいのか、未来を見ることだと感じています。静内農業の生徒さんたちは未来を見て前向きに取り組んでいる方が多いように思います。次年度以降はプログラム実施の有無ではなく、そうした先輩たちと接することで、これから入学する1年生も触発を受けて成長してくれるのではないかと期待しています。
- ・普段接している大学生よりも、静内農業の高校生の方が目標を持ち、問題解決に向かって努力していることに驚きを禁じ得なかった。また、高校生を支援する親を含むステークホルダーと教員の熱意は素晴らしいものであると感銘した。本事業は、このような学生に夢を持って酪農学園大学の獣医学部を選んでもらえるように我々ももっと真剣に教育改革を進めていきたい、と感じさせられる素晴らしいものであった。高校生たちの今後の活躍を期待します。
- ・「多くの人と出会い、学ぶ」ことができる授業を期待いたします。今後とも取組に協力、連携していきたいと思います。関係者の皆様のご尽力で、良い結果につながったと思います。

第4章 教育課程の刷新の方向性を検討・改善 (令和6年度以後)

第1節 教育課程委員会の実施状況

教育課程委員会を4回開催し、教育課程編成に取り組んだ。マイスター・ハイスクール事業の取組により得られた成果、直接生徒を指導していただいた外部講師からの助言や生徒の実態、学習指導要領の理念が具体化されるよう協議を行った。開催内容は次のとおりである。

回	日 時	内 容
1	4月7日(金)	・令和5年度の取組予定について
2	4月25日(火)	・令和6年度入学生の教育課程について ・教科書選定について
3	6月5日(月)	・令和6年度1学年の教育課程について
4	6月6日(火) ～6月26日(月)	・(教科別会議) 令和6年度入学生教育課程作成に関わる意見集約
5	7月6日(木)	・令和6年度入学生教育課程作成に関わる方向性の協議
6	10月2日(月)	・令和6年度入学生教育課程の編成について
7	2月21日(水)	・令和6年度入学生教育課程に関わる学校設定科目等について

表22 教育課程委員会の実施経過

第2節 令和6年度入学生教育課程について

1 令和6年度入学生教育課程における改善内容

(1) 探求型学習活動の充実

食品科学科第2学年、第3学年、生産科学科第2学年、第3学年の科目「課題研究」をそれぞれ1単位ずつ増単し、2年間で6単位となるよう設定する。本校における探究型学習の中核科目として指導の充実を図る。

(2) 多様化する生徒の進路実現への対応

多様化する生徒の進路希望の実現や、大学進学者希望者に対応するため、6群に及ぶ選択科目群を取り入れる。これまで本校で行えなかった「数学Ⅱ」や「数学B」「生物」「アドバンスドイングリッシュ」等の科目を導入し、大学入学後に必要な学力を養う。また、ICT活用を通して個別最適な学びの実現を図る。各学年において導入する選択科目群は次のとおりである。

- ・A群として第2学年に「数学Ⅱ」、「生物」、「フードデザイン」、「レクリエーションスポーツ」を各2単位ずつ置く。
- ・B群として2年生に「作物」、「畜産」、「果樹」、「農業と情報」を各2単位ずつ置く。
- ・C群として第3学年に「数学Ⅱ」、「生物」、「生涯スポーツ」、「スマート農業」を各2単位ずつ置く。
- ・D群として第3学年に「時事問題研究」、「数学B」、「グローバルスタディーズ」を各2単位ずつ置く。
- ・E群として第3学年に「ライフマネジメント」、「理数探究」、「アドバンスドイングリッシュ」を各2単位ずつ置く。
- ・F群として第3学年に「食品微生物」、「栽培と環境」、「飼育と環境」を各2単位ずつ置く。

(3) 外国人との共生をテーマとする学習

第3学年の選択科目D群に学校設定科目「グローバルスタディーズ」を2単位置く。馬産地日高において欠くことのできない存在となっている外国人との共生を学ばせる等の目的で実施する。

(4) キャリア教育の充実

第1学年における「産業社会と人間」を1単位増単する。マイスター・ハイスクール事業で得られた地域理解促進の取組や、2年生以降本格化する探究型学習の基礎を身に付けるとともに、キャリア教育の充実を図る等の目的で実施する。

(5) 学校設定科目「スマート農業」の設定

第3学年の選択C群に学校設定科目「スマート農業」を2単位置く。マイスター・ハイスクール事業において継続して学習してきたスマート農業について学校設定科目を置き、ITやICTの活用を農業の各分野にわたり横断的に学習させることを目的で実施する。

(6) 学校設定科目「生涯スポーツ」の設定

第3学年の選択C群に学校設定科目「生涯スポーツ」を2単位置く。北海道外出身の生徒が多い現状を踏まえ、スケートやパークゴルフなど北海道ならではのスポーツの学習等を通して、地域の理解をより深めること等を目的で実施する。

北海道静内農業高等学校 令和6年度入学生 教育課程表

学年	学科	コース	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
1年	食品科学	現代の国語 公共	現代の国語	公共	数学I	生物基礎	体育	保健	書道I	英語 コミュニケーションI	家庭総合	農業と環境	総合実習	農業と情報	産業社会と人間	LHR	総合実習																
	生産科学																	現代の国語	公共	数学I	生物基礎	体育	保健	書道I	英語 コミュニケーションI	家庭総合	農業と環境	総合実習	農業と情報	LHR	総合実習		

※1年次、情報Iを農業と情報で代替履修する

学年	学科	コース	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
2年	食品科学	言語文化 地理総合	言語文化	地理総合	数学A	保健	体育	論理・表現I	家庭総合	数学II	作物	課題研究	食品製造	食品化学	食品流通	商品開発I	産業社会と人間	LHR	総合実習														
																				生物	畜産												
	生産科学	園芸 馬事	言語文化 地理総合	言語文化	地理総合	数学A	保健	体育	論理・表現I	家庭総合	フードデザイン レクリエーションスポーツ	果樹 農業と情報	課題研究	野菜	草花	馬学	馬利用学	産業社会と人間	LHR	総合実習													
																					園芸	馬学											

選択A 選択B

※2年次、課題研究のうち、1単位を総合的な探究の時間の代替履修とする

学年	学科	コース	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
3年	食品科学	国語教養 歴史総合	国語教養	歴史総合	体育	科学と人間生活	数学II	時事問題研究	デュアル派遣実習	課題研究	食品製造	食品化学	食品流通	商品開発II	産業社会と人間	LHR	総合実習																
																		生物	数学B	ライフマネジメント	食品微生物												
	生産科学	園芸 馬事	国語教養 歴史総合	国語教養	歴史総合	体育	科学と人間生活	生涯スポーツ	グローバルスタディーズ	理数探究	栽培と環境	課題研究	農業経営	野菜	草花	馬学	馬利用学	産業社会と人間	LHR	総合実習													
																					スマート農業	アドバンストイングリッシュ	飼育と環境										

選択C 選択D 選択E 選択F

表23 令和6年度入学生の教育課程表

2 令和6年度学年別教育課程における実施内容

令和6年度における第2学年の教育課程は、令和5年度入学生教育課程表に基づいて実施する。第3学年の教育課程は、令和4年度入学生教育課程表に基づいて実施する。

第5章 指定終了後の取組

1 経過

本事業開始2年目より、指定終了後を見据えた連携体制の拡大、試行的事業への取組、予算確保の手法等について検討ならびに試行を行った。マイスター・ハイスクールCEO桑名真人氏が副校長として本校に常駐し、企業や団体、知事部局など外部との連携についてコーディネートするとともに、具体的な内容や手法、心がけるべき事項などについて本校職員へ教示した。関係企業や団体との検討、協議した内容については次のとおりである。

なお、本章においては、指定終了後の取組を記載するにあたり、本事業の特色でもある運営委員会、マイスター・ハイスクールCEO、産業実務家教員の機能についても整理している。

(1) 日高振興局との連携をはじめ、地域の関係機関・団体などとの連携

日高管内唯一の専門高校として、新ひだか町はもとより日高管内の産業人の育成をめざし、日高振興局の地域政策や商工業振興、農業振興を担う部門と日高教育局との連携に向け、情報交換と校内視察を行っている。

具体的な事業として、管内事業者との交流や課題解決のワークショップ、北海道が設置するどさんこプラザでの販売の機会の創出、また、地域の産業に貢献するイノベーターとしてのマイスターを育成する観点から、農業だけではなく、日高管内の他産業や歴史や風土、さらには人材や観光資源など幅広く実態を理解する取組を行った。

農業の生産技術の指導に関しては、新ひだか町の農業改良普及センターはもとより、北海道立総合研究機構の中央農業試験場や花・野菜技術センターの指導をいただいていた。こうした取組に加え、スマート農業技術をはじめとしたICT活用に関しては、農業分野以外の工学的なアプローチも重要となるため、

①北海道立総合研究機構の本部や工業試験場、ものづくり支援センター

②産学官で研究成果の事業化支援や新事業・地域創出に取り組む「公益社団法人北海道科学技術総合振興センター」

等と連携していけるよう、本校の人材育成に向けた取組や具体的プロジェクト学習などの支援についての打合せを通じ、今後に向けた理解と協力をお願いしている。

(2) 専門教育の各分野

馬事教育については、日本中央競馬会、日本軽種馬協会に対して、指定期間終了後も引き続き生徒の指導にご協力いただきたい旨、打診している。

園芸コースについては、環境負荷の軽減と持続的な発展といった世界的な潮流にも配慮しつつ、地域課題と連動した学習に取り組めるよう、町やJAしずない、JAみついし、農業改良普及センターなどと持続的な協力関係を築けるよう協議会の設立と町の農業実験センターと連携したプロジェクト研究を行っている。

食品科学科については、北海道経済連合会、国分北海道株式会社等と協議を行っている。北海道経済連合会との間では、包括的な支援は引き続きお願いしている。これまで支援を受けてきた中で関係性が構築された企業とは、学校が直接に連携を深めるなど役割を明確にしつつ、終了後においても、これまでに指導いただいた水準を維持していけるよう、協議している。

なお、国分北海道株式会社からは、講師の派遣による授業や実習などが、同社社員の研修機会として役だっていると評価をいただいている。

(3) 資金調達の手法に関わる試行

財源確保の手法について、

①北海道静内農業高等学校教育振興会を事業主体とした支援

②新ひだか町などの外部機関が主体となった支援

③協議会方式による支援

④新たな予算事業によらない既存事業等を活用した支援(日高振興局、北海道経済連合会等)

⑤社会貢献にねざした支援(ロータリークラブ、日高信用金庫等)

⑥北海道立学校ふるさと応援事業

⑦クラウドファンディング

⑧北海道教育庁の事業予算の活用

等を検討対象とし、試行に取り組んだ。

いずれも、支援団体ごとに趣旨や支援方法等特性の違いがあった。また、関係者の理解なくしては支援も成立しないこと、さらには関係機関・団体、企業それぞれの組織としての意志決定も必要となるため、引き続き、本校の取組についての情報提供に努め、終了後の円滑な取組につなげていく必要がある。

資金調達に関して、指定終了後における予算獲得方法の一つとして、クラウドファンディン

グ事業(北海道教育委員会が主催する「公立高校ガバメントクラウドファンディング事業」)にも取り組んだ。

(4) 指定終了後の支援の要請

競走馬関係団体からは、これまでも日本軽種馬協会より、競走馬に関わる人材育成のための補助金の支援を受けていたが、マイスター・ハイスクール指定以降、生徒数が増加している現状を理解いただき、馬事教育を指導する教員の人材育成に向け、補助金の増額を検討していただいている。

北海道経済連合会においては、これまでも食クラスターグループの取組として位置づけいただき、無報酬で、支援をいただいていた。また、札幌市に拠点を置く食品企業においても、本校の負担が軽減できるよう対応をいただいていた。指定終了後は、双方の負担が軽減できるよう、授業計画を精査し、内製化できるものは内製化すること、専門性が高く引き続き講義をお願いする場合においても、指導いただく内容のしぼり込みやリモートの利用など、検討、協議を進めている。

2 指定終了後の取組

指定終了後の取組を検討するにあたり、本事業の特長である、

①運営委員会

②マイスター・ハイスクールCEO

③産業実務家教員

について、運営委員会の指導のもと、機能継承についての方向性を検討した。これと同時に、

④授業計画の立案

に取り組んだ。

①から③の組織や機能の継承に当たっては、本事業の取組成果を他の農業高校へ普及することを見据え、横展開を可能とするコンパクト化を図りつつ、現在の教育水準を維持・発展させることができるよう検討した。検討、協議した内容については次のとおりである。

(1) 運営委員会の機能と継承

マイスター・ハイスクール事業の管理機関として、本校の設置者である北海道教育委員会とともに、地域の産業・社会政策を担う基礎自治体である新ひだか町、さらには地域の基幹産業の一つである農業の協同組合組織であるJAしずないが担っていただいたことで、取組が大きく広がった。新ひだか町には、商品開発のプロジェクトやみどりの食料システム推進協議会などの取組におおいに力となっている。JAしずないには、生産科学科の実習や視察への支援とともに、本校卒業生の新規就農に向けた具体的な検討に積極的に関わっている。新ひだか町とJAしずないのトップには、運営委員会の委員長、副委員長に就任していることも取組が進展する大きな原動力になっている。

なお、指定終了後の連携体制については、

①学校内外の関係者の会議出席等の負担軽減とともに

②開催主体の機動性の確保

③他校での横展開

等を考慮し、地域関係者を中心とした合議体、コンソーシアムを組織することとしている。

表24に示した北海道静内農業高等学校地域連携コンソーシアムを仮称とする組織においては、「地域農業・馬産と食品産業の発展を支え、地域の経済・社会をけん引する人材を育成・確保を産業界、行政と教育の関係者が一体となって取り組むこと」を目的として、マイスター・ハイスクール事業で取り組んできた、地域や産業界との協働による課題の解決、人材の育成、確保を主な事業として行うものとした。

表25に示した組織編成については、コンソーシアム全体会と小委員会により編成し、全体会については、地域関係者を主体とした組織とすることとした。小委員会は、本校の学科長、コース担当者をリーダーにして、これまで取り組んできた学科やコースの取組を継続、発展させていく。

なお、地元の企業や団体はもとより、札幌市に拠点を置く企業等からの支援については、終了後の教育課程を見直した中においても必要であるため、今後ともその関係性を維持できるよう、リモートの会議や、人的余裕や予算が許せば札幌にて対面での会議を開催することも想定している。

名称		北海道静内農業高等学校地域連携コンソーシアム(仮称) (略称:静農コンソーシアム)
設置の目的		北海道静内農業高等学校地域連携コンソーシアム(以下「静農コンソーシアム」という。)は地域農業・馬産と食品産業の発展を支え、地域の経済・社会をけん引する人材を育成・確保を産業界、行政と教育の関係者が一体となって取り組むことを目的とする。
事業の内容		静農コンソーシアムは、設置の目的を達成するため、次の事業を行う。 一 産業界と行政、静内農業高校が協働して取り組む地域課題の解決 二 産業界と行政、静内農業高校が協働して取り組む人材育成のための事業 三 その他
組織・役職	全体組織	静農コンソーシアム全体会(仮称)(1回/年) 静農コンソーシアムは、静内農業高校と別表1に掲げる企業・団体などにより構成する。 全体会には、企業・団体等から推薦のあった実務担当者と静内農業高校教職員が参画する。 ※別表1には、旧運営委員会にて構成した企業・団体と対比できるように列記
	部会組織	静農コンソーシアム小委員会(仮称)(少人数/随時/リモート併用) 静農コンソーシアムには、食品、園芸、馬事に係わる小委員会を設置する。 小委員会には、全体会に参画する関係分野の実務担当者・教職員の他、学科長・コース担当教員が推薦する企業・団体などの実務担当者を加える。
	役職と想定される就任者	会 長:1名(新ひだか町からの選任を想定) 副会長:1名(所属は未定) 食品小委員会(学科長)、園芸小委員会(学科長もしくはコース担当者)、馬事小委員会(学科長もしくはコース担当者)

表24 指定終了後のコンソーシアムの活動と組織(検討案)

区分		コンソーシアム(全体会)	コンソーシアム(小委員会)	備考
食品小委員会	新ひだか町	まちづくり推進課長	○	
食品小委員会 (札幌チーム)	北海道経済連合会	食クラスターグループ部長	○	
	国分北海道株式会社	人事総務部長	○	
リーダー 食品科学科 学科長	生活協同組合コープさっぽろ		○	
	雪印メグミルク株式会社		○	
食品小委員会 (新ひだかチーム)		当面、静農ブランド開発促進プロジェクトの打合せ機会を活用した外部関係者との連絡調整を検討。		
園芸小委員会 リーダー 生産科学科 学科長もしくはコース担当	新ひだか町			当面、みどりの食料システム推進協議会メンバーの打合せの機会を活用した外部関係者との連絡調整を検討。
	JALずない			
	JAみついし			
	日高農業改良普及センター			
馬事小委員会 リーダー 生産科学科 学科長もしくは 馬事コース担当	日本軽種馬協会	○	○	
	日本中央競馬会		○	
	日高軽種馬農業協同組合		○	

表25 コンソーシアム小委員会の構成(検討案)

(2) マイスター・ハイスクールCEOの機能と継承

本校のマイスター・ハイスクール事業においては、北海道農政部より前北海道農政部生産振興局技術支援担当局長の桑名真人氏にご就任いただき、事業1年目は兼職として、事業2年目以降は、本校の副校長として常勤いただいた。本校の指定申請にあたっての事業計画では、「・・・コーディネーターとしての役割を担う」とともに、「・・・本校教職員の資質・能力を向上させるための指導・助言」としており、統括者、コーディネーターの機能に関しては、
①学校内外の連携に向けた関係機関、団体企業等との関係性の構築
②外部の人的・物的資源の活用による授業改善等に取り組んだ。

本校におけるマイスター・ハイスクールCEOが担ってきた役割の代表的なものの一つは「コーディネート機能」であり、指定終了後において重要な地域の関係機関・団体・企業等のエコシステムに繋がる新ひだか町、JA、普及センター、農業試験場、林業試験場、森林組合、種苗会社等を結んでの関係性の強化、令和4年8月に実施した北海道内の農業の教科、農場の教員を対象としたシンポジウムの企画や調整などもコーディネート機能の一部である。

本校教職員の資質・能力を向上させるための指導・助言については、その一つとして、JAカレッジにて営農技術・知識に係る研修への参加や、学校内部での業務とともに、外部の研修教育施設を活用した取組も行った。

本校においては、外部講師等の確保や企業等の施設利用、授業計画の改善等の方向性、専門性が大きく異なる学科やコースが存在し、いわば3つの専門高校の運営が行われているようなものであり、それぞれの分野特性に配慮しつつ、事業推進に取り組んだ。

マイスター・ハイスクールCEOが担ってきた機能や役割は、道内の各高校での取組可能なものとする必要があるため、学校運営体制の中で、教育課程委員会などの組織や分掌部長、学科長といった役職ごとに担う体制とすることとした。

(3) 産業実務家教員の機能と継承

本校のマイスター・ハイスクール事業においては、日本軽種馬協会静内種馬場より前静内種馬場場長の獣医師中西信吾氏に就任いただいた。事業1年目は静内種馬場に勤務しながら、非常勤講師として授業計画のアレンジや競馬関係団体や大学との関係性を構築した。事業2年目以降は、北海道教育委員会より特別免許状が付与され、本校の産業実務家教員として常勤し、直接生徒の指導に当たっている。産業実務家教員について、本校の指定申請にあたっての事業計画では、「実践的な実験・実習の授業を行い、産業界の最先端の技術・知識等の指導」とともに「若手教員に対する研修」等を担うこととされている。

学校が独自に設定した「馬学」「馬利用学」の講義、実習とともに、生徒のプロジェクト研究では、繁殖や育成等を課題とする研究班と、乗馬療育を課題とする研究班の指導を担当している。こうした授業、研究班活動の専門性を高めるため、JRAやJBBA、さらには北里大学、帯広畜産大学等とのコーディネーターも担当している。

また、学校農場で生産される競走馬の健やかな成長とセリに向けての品質向上が図られるよう、教職員への飼料給与や健康管理をはじめとした技術面の指導・助言も行っている。

「最先端の技術・知識の指導」については、例えば、最新のICTの活用として、3Dスキャナーを活用した馬体測定や3Dプリンターを活用したあぶみ、蹄鉄の製作など、生徒がプロジェクト研究にて参加する中で取り組んでいる。

馬事教育においては、馬を専門とする獣医師、畜産指導者が農業教員はもとより農業系の大学や研究・普及組織においても極めて少なく、恒常的に馬事コースの生徒がそれらの専門的な指導者に直接的に接しての指導を受ける機会を確保することは期待しづらい状況である。

また、本校においては馬事コースを担当する教員の人事異動計画やキャリア形成に配慮して複数の担当教員の育成が必要である。さらに、学校の施設等の教育環境も充分ではない。

産業実務家教員が果たしてきた最新の技術・知識を伝える、社会実装したばかりの技術や生徒が今後、社会に出た時に社会実装されている技術・知識を伝える役割は極めて大きいものである。

これら産業実務家教員が担っていた授業、実習指導については、馬事コース担当教員により内製化して対応することとしている。今後、現在の教育水準を維持、向上させるためにも、教職員の指導力向上のための研修を並行させながら、引き続きJRA、JBBAなどの外部専門家や施設利用などの支援をいただく体制を構築する等、学校と関係する団体のエコシステムの中で担っていくこととしている。

(4) 指定終了後の授業計画

これまでの3年間、関係企業や団体との連携の中で、専門的な授業をお願いするだけではなく、施設や設備を見学させていただき、学校ではできない実習の受入などにも取り組んできた。外部講師からの講義や、学校を離れた場所での学習や実習は、生徒の理解と技術の定着を促し、高い学習効果が得られていると同時に、生徒の高い満足感につながった。こうした実態とこれまでの運営委員会でのアドバイスや定量的・定性的目標の評価を踏まえ、指定終了後の授業計画を、

- ①外部有識者と教員との機能分担
- ②重要度に応じた授業方法の選択
- ③教科間の連携

の観点から精査している。

また、これらに加え、

- ④現在の教育水準を落とすことなく、横展開が可能な教育課程のモデル化
- ⑤外部との連携については学習内容の重要性や代替の困難性などを考慮
- ⑥学校内の教育資源、教員とともに、施設や設備などで置き換えが可能かどうか

等を考慮して、各学科やコース内で精査を進めてきた。

指定終了後においては、これらの視点から授業内容を見直しながら取り組むとともに、関係する企業や団体等と育成すべき人物像の共有とその実現に資することや、一人ひとりの進路に応じた個別最適な学びとなるよう取り組むことが必要である。また、こうした見直しが編成する教育課程と整合性が確保される必要もある。

検討した食品科学科、生産科学科園芸コース、生産科学科馬事コースの取組内容の概要については次のとおりである。

ア 食品科学科

食品科学科については、

- ①食品衛生に関する知識や食品関連産業の現状のように、常に最新の情報・考え方に基づく必要のあるもの、企業の実践事例など、学校内では代替ができないものについて、オンラインなどを活用して実施
- ②商品開発におけるマーケティングの講義や商品企画開発と分析・価格設定のように、実務経験を有する専門家による講義
- ③市場の分析や試作品の評価について外部の専門家の直接的な指導
- ④マーケティングのためのアイデア整理や商品のディスプレイについて外部の専門家の説明とともに実技指導
- ⑤食品分析や食品製造現場の視察など、学校の設備・機器では対応が難しく引き続き外部の施設を利用している。

イ 生産科学科園芸コース

生産科学科園芸コースについては、

- ①農業を専門とする教員の専門性ではカバーが難しい、販売活動での商品陳列、ポップ作成などの方法や林産物である炭の特性、その活用方法といった、外部の専門家の直接的な指導
- ②新規就農者のロールモデルの学習のように、生徒に生産者の生の声を伝える学習
- ③試験研究機関・研究農場といった学校農場では経験が難しい施設の視察、土壌微生物に関する最新の知見を活用した栽培技術の習得のような地域でも実践事例、活用事例がないものについて、大学等とオンラインで講義
- ④バイオ炭を用いた栽培試験結果を活用するためのデータの見方、分析方法やバイオ炭等の要素技術の活用と栽培技術全体の組み立て方法
- ⑤地域農業の課題解決に向けての地域農業に関する最新の事情や課題設定のヒント、課題解決に向けた手法の検討など引き続き、専門的な指導助言や意見交換としている。

ウ 生産科学科馬事コース

生産科学科馬事コースについては、

- ①馬の蹄の講義や馬の栄養等のように、本校教員が基礎的内容を指導しつつ、有資格者や外部の専門家により高度な専門的知識を生徒に学習
- ②牧場の視察や馬の獣医療のように、実際の生産・育成牧場や大学など地域の農場や外部の専門機関を視察
- ③蹄の管理に関する実習やセリに向けた引き馬展示など有資格者による指導や外部の専門家の説明とともに実技指導
- ④馬の躰や調教、乗馬の学習のように、学校農場だけでは対応が難しく引き続き外部の施設を利用している。

生産科学科馬事コースでは、J B B A、J R Aといった外部からの支援とともに、3つの学科・コースで唯一、産業実務家教員を任用、常勤にて配置してきた。これにより、他の学科、コースに比べ、高度・専門的な技術、知識を要する授業内容についても、相当分、産業実務家教員がカバーし、外部に支援をいただく授業も、食品科学科、生産科学科園芸コースに比較し少ない現状である。

外部からの支援をいただく授業については、より高度・専門的な内容であるため、引き続き、外部関係機関・団体などをお願いする部分が多くなる。今後は、常勤してきた産業実務家教員からいただいた知識や技術、授業方法等について、馬を担当する教員が共有し、自ら授業を行うこととしているが、これらは単純に内製化できるものではないため、担当教員の研修と並行しながら軽種馬産業の発展に係るエコシステムのなかで担えるよう体制作りを進めることとしている。

第6章 研究成果の普及

1 学校ホームページ，SNSを活用した情報発信

マイスター・ハイスクール事業における取組状況や研究成果，並びに生徒の取組状況について，学校のホームページ，フェイスブック，インスタグラム，XなどのSNSを活用し，事業ごとに速やかに発信した。



図7 学校ホームページ(左)，フェイスブック(中央)，インスタグラム(右)による成果の発信

2 マスメディアによる情報発信

マイスター・ハイスクール事業における取組状況や研究成果などは，新聞などのマスメディアに取り上げてもらうよう事業ごとに新聞社，出版社などへ周知した。本校のマイスター・ハイスクール事業の取組を多くの新聞や雑誌の掲載，テレビ放送の機会を得たことは，本事業の取組や成果を周知することにつながった。このことにより，地域住民がこの事業に対して関心を持つきっかけとなり，多くの応援をいただくことにつながった。

本事業の取組について報道などに携わっていただいた新聞社，出版社，テレビ局は次のとおりである。

新聞社	出版社など	テレビ局
北海道新聞(全道版，地方版) 日高報知新聞 日本農業新聞 苫小牧民報	北海道農業改良普及協会 北海道通信 日刊スポーツ 道新スポーツ 競馬新聞 ギャロップ BOKUJOB	北海道放送(HBC) 北海道テレビ放送(HTB) 札幌テレビ放送(STV) 日本放送協会(NHK) テレビ北海道(TVH) テレビ東京 テレビ朝日

表27 本事業の取組において関係した報道機関

また，農林水産省の広報媒体である「aff」において，本校の産業界と連携した学習や競走馬生産等を紹介いただいた。インターネットニュースである「ヤフーニュース」や，文部科学省ポータルサイト「マナビカエル」等においても，本校のマイスター・ハイスクール事業の実施状況等を紹介いただいた。

さらに，日本軽種馬協会の広報誌，国分北海道株式会社の社内誌，公益財団法人北海道市町村振興協会の発行する「活かせ若者の力，地学連携でまちに活気を 地域づくり事例集2022」等にもマイスター・ハイスクール事業の取り組み等を紹介いただいた。

3 管理機関による研究成果の普及

本事業の管理機関である北海道教育委員会においては，成果発表会を運営し実施校における取組をオンライン配信するなど全国の専門高校並びに関係者に対して本事業の取り組みを周知した。成果発表会の概要は「4 成果発表会」のとおりである。

また，「マイスター・ハイスクールだより」を令和3年度，4年度は年間3回，令和5年度は年間4回発行し，本事業の取組が地域との連携に係る教育活動を実施する際の参考となるよう全道の専門高校に周知した。

新ひだか町においては，町の広報誌において，本校と実施している商品開発の取組やそれに関わる生

徒の声を掲載し、取組内容を町民へ周知した。

4 成果発表会

(1) 目的 令和3年度から3年間、文部科学省の指定を受けて北海道静内農業高等学校が取り組んだ「マイスター・ハイスクール事業」の成果を、全道の高校生、教育関係者並びに産業人材の育成に興味のある道民に対して、広く成果を普及し、将来の本道産業を支える人材育成に資する。

(2) 主催 北海道教育委員会、北海道静内農業高等学校

(3) 協力 日高信用金庫

(4) 日時 令和5年12月19日(火) 13:45~15:50

(5) 開催方式 参集およびZ o o mによるハイブリット方式

(6) 運営会場 新ひだか町公民館

(7) 参加対象 高校生、教育関係者、農業関係者、本道産業人材の育成に興味のある方

(8) 概要

ア 【説明】マイスター・ハイスクール事業の研究成果について、本校代表生徒による説明

(ア) 食品科学科3年 梅木 優歌

(イ) 生産科学科3年 園芸コース 山本 唯斗

(ウ) 生産科学科3年 馬事コース 牛尾 夢我

3名の生徒からマイスター・ハイスクール事業をとおした学びの概要や自身のものの見方や考え方の変化、進路などについてプレゼンテーションを含めた口頭発表を行った。

イ 【討議】テーマ：「10年後の日高農業を考える」

分野	班	テーマ 【助言者】 【報告者】
食品	1班	「地域食材を活かした食品開発革命」 【助言者】松塚 尚人 氏 (北海道経済連合会 食クラスターグループ部長) 【報告者】食品科学科3年 川上 稜平
	2班	「10年後の食品廃棄物削減について」 【助言者】村山 謙太 氏 (新ひだか町商工会 経営指導員) 【報告者】食品科学科3年 高橋 柚珠乃
	3班	「未来の新ひだか町の災害食」 【助言者】中村 英貴 氏 (新ひだか町総務部町づくり推進課 課長) 【報告者】食品科学科3年 梅木 優歌
	4班	「SDGsに貢献できる地域の規格外品を用いたこれからの商品開発を考える」 【助言者】今野 雄一 氏 (生活協同組合コープさっぽろ 苫小牧地区本部長) 【報告者】食品科学科3年 田中 夢斗
馬事	5班	「10年後の日高の馬産地にホースマンをどうやって増やすか」 【助言者】頃末 憲治 氏 (日本中央競馬会日高育成牧場 副場長) 【報告者】生産科学科3年馬事コース 中村 波音
	6班	「10年後の日高の馬産地を盛り上げるためには」 【助言者】山本 竜太 氏 (日本軽種馬協会静内種馬場 次長) 【報告者】生産科学科3年馬事コース 栗澤 晟
	7班	「馬のセカンドキャリアの充実に向けて」 【助言者】浮島 理 氏 (日本中央競馬会日高育成牧場 場長) 【報告者】生産科学科3年馬事コース 田中 愛
	8班	「子ども達と馬の関わりを増やすためには」 【助言者】小島 謙治 氏 (日高軽種馬農業協同組合業務部 部長) 【報告者】生産科学科2年馬事コース 小清水 陽斗
園芸	9班	「北海道のどこよりも輝いた花卉生産」 【助言者】佐藤 元紀 氏 (胆振農業改良普及センター 東胆振支所長) 【報告者】生産科学科3年園芸コース 野呂 空
	10班	「10年後のミニトマトについて」 【助言者】北島 潤 氏 (日高農業改良普及センター 所長) 【報告者】生産科学科2年園芸コース 鳥海 俊介

表28 成果発表会の班別テーマ、助言者、報告者

各班のディスカッションのテーマは、日頃のプロジェクト学習で学んだ成果を基に決定した。ディスカッションでは助言者とともに議論を深めた。ディスカッション後は各班の報告者より、討議内容の報告を行った。

ウ 講評

- ・新ひだか町長 大野 克之 様
- ・北海道教育委員会教育長 倉本 博史 様

(9) 参加者(生徒、助言者を除く)

- ア 会場に参集した参加者 12名
- イ Z o o mによるオンライン参加者 114名

(10) 参加者のアンケート結果, 感想

ア 質問 1 本事業の取組はどのくらい参考になりましたか

	とても参考になった	まあまあ参考になった	少し参考になった	あまり参考にならなかった
評価者の割合	53.8%	32.3%	13.8%	0.0%

表29 成果発表会参加者のアンケート

イ 参考になった内容(自由記述, 類似意見を集約)

- ・グループ別討議や運営方法(類似意見15)
- ・高校生ならではの発想が面白かったです。(類似意見3)
- ・生徒と参加者の協議や助言によって生徒の理解が深まる様子が見られたから(類似意見12)
- ・生徒たちが、自分たちの成長をメタ認知できているところ(類似意見7)
- ・馬事関連のマイスター・ハイスクール事業は他に例がなく、当該事業における産業人材の育成を高校と地域の関係者がどのように進めているか、興味があったため。(類似意見2)
- ・マイスター・ハイスクール事業がどのようなもので、生徒がどう成長していったのかが伝わった。(類似意見1)
- ・組織的な取り組みにより、どの生徒も課題解決に向けて自分の言葉で語ることができている点が非常に参考となりました。(類似意見5)
- ・このような発表会が今後も増えることが予想されます。堂々とした発表、しっかりしたまとめなど、大変参考になりました。
- ・本事業を推進するにあたり関係の事業者の協力などが必須であるが、事業内容と協力がどのような繋がり方をされたのか発表の中身から垣間見ることができました。事業実施大変お疲れ様でした。(類似意見1)
- ・生徒たちが様々な関係者との交流、連携を通して、学びを深めていく様子が理解できました。地域の課題と学校での学びをつなげる取り組みかと思います。(類似意見1)
- ・現状の地域課題を生徒がどのように、改善協力できるか、深い学びに繋がる内容であった。
- ・高校生のような若者が真剣に地域課題に向き合って学びを深めていく活動そのものが衰退する地域を抑止する源になるだろうと感じました。時代や地域の的を得たテーマで探究されていたと思います。
- ・企業・法人・大学・行政と一体となって連携した取組は、新しい時代に求められている農業高校の魅力化・特色化のモデルケースとなる素晴らしい取組であると感じました。
- ・限られた50分の中で、10班のそれぞれの生徒たちがグループ討議を行い、共有によって発表するまでのプロセスが非常にスマートでした。私も教育関係者として、50分の取り扱い方や発表共有までいたる探究活動のプロセスを参考にさせていただき、自校の生徒の成長に寄与したいと考えることができました。
- ・生徒と地域(関係機関)の大人が互いに意見を交流する活動は、生徒の思考力や創造力を高めるた

めには大変有効であることを再確認することができた。

- ・グループ別討議に係わらず、本日までの学習過程の中で、地域や多様な外部団体との対話、協議、助言及び連携が出来ていた過程が見えたこと。また、生徒が多様な視点を獲得することで、自分事になっていく変容を見取ることができたため。

ウ 質問2 本事業の成果を普及することで、将来の本道産業を支える人材の育成につながるといいますか

	とても思う	まあまあ思う	少し思う	あまり思わない
評価者の割合	61.5%	30.8%	7.7%	0.0%

表30 成果発表会参加者のアンケート

エ その他、感想があれば、自由に記載してください。

- ・生徒のみなさんの意見や考え方が聴けて素晴らしい成果だと思いました
- ・生徒たちが、とても立派でした。司会進行も含め、生徒たちが運営していたことも素晴らしいです。
- ・それぞれの分野の担い手の方々とその分野を学ぶ高校生との討議とその内容共有が中心だったため、これまでのマイスター・ハイスクール事業(MH事業)の成果発表と言うよりも、その前段階の意見交換会の印象を受けました。もちろん、それぞれの意見自体は前向きなものが多く、こうした意見交換の意義は大いに首肯するところです。その上で3年間のMH事業をどう評価するのか、次年度以降の自走に向けた取組にどのように繋げるのか、他の高校・地域に横展開するためのモデルになり得るのか、なるとすればその要素は何か。来月30日に開催される東京での成果発表においては、こうした点も踏まえて頂ければ、と思います。
- ・高校生とは思えないくらいしっかりとした次世代につながる人材育成プログラムだと思います。
- ・生徒会長の挨拶、司会がとても素晴らしかった。
- ・学んだことが日常生活に溶け込んで、新たなビジネスが育つことを期待したいです。
- ・事業そのものについてはとても興味深いもので勉強になることが多かった。
- ・3年間の取り組みの積み重ねを感じました。
- ・発表者はもちろんグループ協議でも各自がしっかりと意見を述べ、活発な議論が行われており素晴らしいと感じました。本日はありがとうございました。
- ・3年間という長期間にわたり、大きな事業をやり遂げる大変さは、想像以上かと思われま。校長先生をはじめとする関係の先生方や生徒の皆さん本当にお疲れ様でした。大変参考になる成果発表会でした。
- ・成果発表会に至るまでの3年間のプロセスは概ね拝見しながら過ごしてきました。発表された時間は、とても素晴らしい時間でしたが、これらの時間はあくまで皆さんがこれまで積み重ねてきたこと・実践したことを振り返ったりまとめるものであると思います。PDCAサイクルを次の段階に進めていくことを期待しております。私もいち教育者として北海道の生徒たちが皆さんと同じように地域課題を発見し、解決していくことを日々目指す人材として成長していけるように探究学習の指導や学びを深めて行きたいと思います。これからも、静内農業高校の生徒の皆さんや先生方が日々の学びや指導を深めていくことを応援しております。本日は、貴重な時間を共有していただき大変ありがとうございました。
- ・もっと宣伝していただき、生徒の進路選択の幅を広げてほしい。
- ・探究活動の充実になる発表会でした。本校でも参考にします。
- ・生徒たちが(先生方もですが)一生懸命地元産業について考えた素晴らしい取組だと感じました。
- ・遠隔で参加しましたが、静内農業の三年間を知る良い機会となりました。
- ・本事業が生徒さんの進路を考える有意義なものであったことを実感する機会となりました。3年間お疲れ様でした。

- ・成果報告会を通じて生徒の言葉を直接聞いたのがとても良かったです。ありがとうございました。

5 研究発表、関係諸団体への原稿寄稿

北海道総合農学研究会の編集する研究会誌に、令和3年度は「地域発次世代イノベーター人材の育成についての取組～ヤフー（株）との連携をとおしたIT人材育成～」、令和4年度は「マイスター・ハイスクール事業で実践する農業経営のグローバル化に対応した国際交流」、令和5年度は「地域とともに目指す特産品開発の取組について」として本事業の取組内容やその成果について寄稿した。

公益社団法人北海道農業改良普及協会の出版物、日本軽種馬協会の機関誌などに寄稿し本事業の取組内容や成果を報告した。

北海道の農業教員を対象とした研究発表などとして、令和3年度第59回北海道高等学校教育研究会農業教科部会においては、「マイスター・ハイスクール事業をとおして見る専門高校の人材育成のあるべき姿」として本事業における取組内容について研究発表を行った。

令和4年度は、第71回北海道高等学校農業教育研究大会第26回全国高等学校農場協会北海道支部大会において、本事業の運営委員会委員長である新ひだか町長 大野 克之 様、同じく副委員長である、JAしずない副組合長(当時) 西村 和夫 様、有限会社あま屋代表取締役 天野 洋海 様の3名をパネラーに迎え、本校マイスター・ハイスクールCEO 桑名 真人 副校長がコーディネーターとなって「持続可能な農業の担い手育成と農業高校、地域の役割」と題してシンポジウムを開催した。本シンポジウムでは3名のパネラーから提言していただくとともに、Googleフォームを活用し、参加した全道の農業高校等の教員等118名と意見や考え方を共有した。

生徒による研究成果の発表として、令和3年度は、農林水産省農林水産技術会議事務局研究推進課産学連携室、NPO法人グリーンテクノバンク等が主催する2021アグリビジネス創出フェアにて、食品科学科における商品開発の取組について研究発表を行った。令和5年度は同じく2023アグリビジネス創出フェアにおいて、生産科学科園芸コースにおけるバイオ炭を活用した環境に配慮した持続的農作物栽培技術について研究発表を行った。

また、食品科学科における商品開発やプレゼンテーションに関する各種コンテストへの取組や、生産科学科園芸コースにおけるフードロス削減コンソーシアムでの研究発表等は、生徒の研究活動が表彰されると同時に、本校生徒の取組を広く一般に周知するに十分な役割を担った。

さらに、北海道教育委員会が主催する「探求チャレンジ」における発表は、令和4年、令和5年と連続して北海道知事賞を受賞した。令和5年度は英語発表部門においても最優秀賞を受賞した。このことは、生産科学科馬事コースにおける地域産業の課題に取り組んだ高度な研究活動と、本校外国語科における農業経営のグローバル化に対応した国際理解教育並びに英語教育の実践結果として、専門高校のみならず、多くの普通高校にもその取組や成果を周知することにつながった。

文部科学省が主催する、令和4年度マイスター・ハイスクール事業中間成果発表会、令和5年度マイスター・ハイスクール事業成果発表会においては、本校マイスター・ハイスクールCEO 桑名 真人 副校長が本校における取組状況や持続可能な人材育成エコシステムについて発表した。これらの取組は全国のマイスター・ハイスクール事業指定校との情報共有のみならず、オンラインで配信されたことにより、本校の取組を広く周知することにつながった。

また、福井県で開催された第33回全国産業教育フェア福井大会においては、生徒による実践内容や事業を通じて学んだ成果等について発表するとともに、展示ブースを運営し、本校の取組内容を発表した。

第7章 北海道静内農業高等学校における マイスター・ハイスクール事業の総括と今後の展望

1 初年度(令和3年度)の取組経過

令和3年度予算により措置された本事業について、概算決定となった令和3年1月から指定申請に係る諸調整を進め、3月に管理機関を予定している北海道教育委員会、JAしずない、新ひだか町より文部科学大臣に指定校の申請を行った。

申請以降においては、具体的に授業の支援をお願いする企業・団体等に対する諸調整とともに、CEOと産業実務家教員の任用に係る調整を行った。

3年5月に事業採択機関とする旨、文部科学省より北海道教育委員会に通知があり、3年度の活動計画の策定とともに8月に運営委員会を開催、マイスター・ハイスクールビジョン、事業計画等が承認された。

スタートが遅れたものの初年度の「発見」というテーマのもと、企業等の第一線で活躍する専門家を外部講師として招へいし、学校の授業でカバーできない専門的な知識や考え方を学ぶことを通して、生徒が「驚き」「発見」を経験し、学習意欲の向上に繋げることができた。

また、マーケティングの職種をはじめ、管理栄養士や獣医師、装蹄師、普及指導員などの専門的な職種に触れることを通して、職業の理解を深め、進路選択の幅を広げることができた。特に初年度に1年生であった生徒はマイスター・ハイスクール事業の終了年度が卒業年度となるが、進路決定にあたって、初年度の外部講師による授業や企業等の施設(職場)見学等がおおいに影響したと考えられる。

さらに、管理機関である新ひだか町の大野町長やコンビニチェーンのトップである株式会社セコマの丸谷会長の講話等を通じ、地域課題の理解とともに地域貢献の意識が高まり、マイスター・ハイスクール事業への取組意欲も向上した。

他方、2年目となる令和4年度に向けては、課題を解決する力とともに農業・食品産業の振興、社会貢献に主体的、協働的に取り組む姿勢を身に付ける必要があるとして、プロジェクト学習とデュアル派遣実習の充実に取り組むこととなった。

2 2年目(令和4年度)の取組経過

(1) プロジェクト学習

プロジェクト学習では、課題の設定から研究計画の立案、実施、評価等の各段階で外部専門家からの助言をいただき、調査研究の充実につながった。

特に食品科学科の商品開発において、商品コンセプトから加工技術、販売手法などについて、開発現場の第一線から助言により食品づくりのコンテストでの受賞や食品企業とのコラボ商品の事業化を実現した。

また、生産科学科馬事コースにおいて、北里大学や北海道立総合研究機構、新ひだか町博物館などの協力により、競走馬利用の幅を広げる、社会貢献となる取組の充実、園芸コースにおいては、LEDやプラチナ触媒の農業利用といった環境配慮に繋がる取組の充実など調査研究の対象の拡がりや深まりに企業・団体等が寄与している。

こうした取組は、生徒の資質向上はもとより、企業・団体、大学、研究機関等の施設見学や実習等とあいまって、教員の資質向上にも寄与している。

(2) デュアル派遣実習

デュアル派遣実習については、それまでの学校所在地近郊の牧場や企業等での実習とともに、札幌市にある食品加工や流通の大手企業での長期休業期間を利用した実習が加わった。

これらの実習にて、生徒は専門的な知識・技術の重要性や企業、社会への貢献に対する意識を身近に感じ、理解を深めるとともに、企業にとっても受入にあたって望ましい人材の確保に繋がることが期待される取組となっている。

(3) 英語教育の充実と国際交流

軽種馬産業をはじめ園芸や畜産農業など日高地域の基幹となる分野は農業の国際化の影響が少ない分野であり、加えて、外国人とともに暮らす地域であることから、英語教育、国際交流の充実は、生徒の将来に向け、極めて重要な取組となる。

1年目より新ひだか町の姉妹都市である米国レキシントン市の高校生とオンライン交流や芸術(書道)の授業と連携し、毛筆や墨絵など日本ならではの表現形式を活かした葉書を作成し、それぞれのペンパル(交流相手)に送る授業により実践的な取組を行っている。

加えて、2年目には日仏両国政府の連携した取組である「日仏農業教育連携事業」を活用し、仏・ヴェルジェ高校との交流を充実させ、インターネットを活用した交流とともに仏から短期留学生を受入れ、軽種馬育成牧場やロータリークラブ、大学の研究牧場など地域と連携した取組を行っている。

これをきっかけに農林水産省の日仏農業教育連携フランス訪問プロジェクトにて、生徒、教員が渡仏し、国際交流とともに現地の日食普及イベントにも参加している。

また、3年目には、米国からの短期留学を受け入れるとともに、ハーバード大学教授による講演を行っている。

こうした取組により、生徒は国際交流をより身近に感じるようになり、3年目において、生徒が自ら希望し、様々な交流プログラムを活用し、米国や豪州に渡航、交流する取組につながったものと考えている。

(4) 関係機関・団体等との連携強化

ア 新ひだか町(基礎自治体)

マイスター・ハイスクール事業2年目から新ひだか町と連携し、①町内事業者との商品開発、②バイオ炭を活用した花・野菜栽培の実証試験に取り組んでいる。いずれの取組も、新ひだか町の町長部局との関係強化はもとより、町内の事業者や商工会、観光協会、JA等と本校教員との顔の見える関係づくりにも寄与している。

イ 日高振興局(北海道庁出先機関)

北海道では、知事部局、北海道教育委員会の出先機関として、それぞれ振興局、教育局があるが、新ひだか町を管轄区域とする日高振興局との連携を強化するため、振興局の農務、商工、水産・林務の担当者と3回の打合せを経て、3年目に向けた取組(一部は2年目に取組)内容を決定、3年目に商工関係の事業者とともに講演の受講やワークショップの参加、アンテナショップでのテスト販売、農林水産業の理解を深める視察などを実施している。

いずれも行政部局の既存の取組などを活用したもので、自走に向けた取組として、今後も活用が期待されるものとなっている。

ウ 軽種馬団体等

マイスター・ハイスクール事業の指定と前後して、マスメディアによる報道、学校からのSNSでの発信等の寄与もあり、全国から生産科学科馬事コースを志望する生徒が増加している。こうした生徒数の増加に対し、馬に関連した講義や実習等の水準を維持するため、隣接する日本軽種馬協

会静内種馬場の職員の協力と、施設利用をはじめ、日本中央競馬会日高育成牧場(浦河町所在)、新ひだか町ライディングヒルズ(町教育委員会所管施設)の支援を受けている。

(5) 2年目の取組と課題の総括

「挑戦」というテーマを設定した2年目の様々な取組は、生徒が1年目に外部専門家や外部での視察・実習等から吸収した成果とあいまって、運営委員会から「生徒の雰囲気が高まっている」「生徒の意欲が高まっている」といった評価とともに卒業後の地域産業への就農や就業等への期待が高まるようになってきた。本事業のねらいの一つである「地方創生」や「地域産業人材の育成」に運営委員会においても手応えがあったものと考えている。

具体的な取組に関し、2年目は、外部専門家の支援を得てのプロジェクト学習、デュアル派遣実習の充実とともに、他の取組においても外部関係機関、団体等との連携を深め、教育内容の充実に努めている。

分野により関係する企業や団体等は異なるものの、食品科学科、生産科学科(馬事コース、園芸コース)や英語・国際交流を担当する教員それぞれが関係先との具体的な取組内容の検討・協議を重ね、その充実に努めている。こうした取組を通じ、人材育成に関する目標の共有とともにマイスター・ハイスクール事業終了後においても協力関係を維持していけるよう取り組むこととなった。

3 最終年度(令和5年度)の取組経過と指定終了後への期待

「進化」というテーマを設定した最終年度においては、文部科学省が求める「産業界他関係者一体となったカリキュラム刷新・実践」、「地域における人材育成と成長産業化のエコシステムの確立」をめざし、生徒の「進化」とともに、教育課程の「進化」、学校と地域・企業等との関係性の「進化」に取り組んだ。

(1) カリキュラムの刷新・実践

1年目に外部の専門家による講義や外部の施設等を利用した実習、視察などを組み込んだ授業計画を策定、実施するとともに、2年目には「総合実習」「プロジェクト学習」の見直しとともに、新たに「商品開発Ⅰ」「商品開発Ⅱ」を学校設定科目としている。

3年目は、こうした蓄積を踏まえつつ、農業の教員とともに普通教科の教員も参画し、7回の教育課程委員会を実施、3年目に実施可能な見直しについて、すみやかに実施するとともに、マイスター・ハイスクール事業終了後に入学する生徒の教育課程表を抜本的に見直した。

ア 3年目に実施した見直し

(ア) プロジェクト学習の充実

1年生に「かぼちゃの栽培管理」をテーマに学年単位でプロジェクトを実施、2年生では、グループでの課題研究を実施していたことに加え、3年生で生徒一人ひとりが独自の課題を設定し、調査・研究を「個人プロジェクト」として実施し、その成果については、ポスターセッションを実施した。

(イ) 遠隔授業配信システムを利用した普通教科の充実

夏期及び冬期の休業期間に、北海道教育委員会の遠隔授業配信システム「T-base」を活用し、専門高校において不足しがちな普通教科の授業を強化している。この取組は、生徒とともに教員の資質向上にも寄与している。

イ 終了後に向けた見直し

(ア) 「探究型学習」の充実

「探究型学習」は文部科学省が示す新しい学習指導要領の柱となるものであるが、本校の教育課程の見直しについて、「探究型学習」の中心となる科目「課題研究」の単位数を増加し、外部専門家の支援とともに指導時間を確保しつつ、関連して、教科等横断的な学習の充実、異年齢集団による活動などに取り組むこととしている。

(イ) 個別最適な学びの実現をめざす選択科目の充実

令和6年度入学生の教育課程では、「数学Ⅱ」「数学B」「生物」「応用英語」といった選択科目を設定し、大学進学後をも見据えた内容とするとともに、「スマート農業」「国際交流」「シーズンスポーツ」など、昨今のICTの進展や地域特性などを踏まえた学校設定科目を組み入れることとしている。

以上の見直しは、3年間の外部関係機関・団体、企業等の支援を受けた授業や実習等の経験、外部からの指導を踏まえたものであり、「探究型学習」を中心に位置づけることにより、将来の成長産業や社会構造の変化に耐えうる人材育成システムとなるものと考えている。

(2) エコシステムの構築

ア 生態系とマイスター・ハイスクール

学校と地域の関係を生態系の樹木と土壌、他の樹木との関係と見立てた場合、教職員や企業等関係者一人ひとりの立場は、樹木の細胞であったり、土壌中の微生物であったりということになる。

この生態系のネットワークが、樹木間や土壌と樹木の間での栄養を移動させるのと同様に、マイスター・ハイスクール事業では、学校の教職員と企業等の関係者との間で、外部講師や外部の施設利用をはじめ、様々な外部の資源を教育資源として活用して、授業や実習を組み立てている。

イ マイスター・ハイスクールのネットワークの伸張

この3年間で、食品科学科と生産科学科馬事コース・園芸コースそれぞれのネットワークは、人事異動による担当者の交代がありつつも、授業計画の充実とともに、ネットワークの枝が広がり、ネットワークに参加する教職員、企業等の関係者の総数も広がってきている。

また、ネットワークの実務に直接関与しない教職員、企業等の関係者においても、学校と企業等双方の取組に対する理解を深め、共感が広がってきた。

共感とは、学校と企業等双方の組織内部でのマイスター・ハイスクールと、その核となる人材育成の取組への同意、協力の意志につながってきたものと考えている。

ウ ネットワークの維持・発展

このネットワークにおける連携関係を継続していく上で、学校はもとより、企業や団体、自治体においても、実務担当者のみならず、トップを含むコンセンサス形成が要であり、その維持が終了後の自走において重要となるものと考えている。

学校と企業等が異なる意志決定のプロセスや組織体制、職場分化を持つことについて、双方が立場を尊重しつつ、一つひとつの授業、実習等の内容の摺り合わせを丁寧に行う必要がある、連携関係の目的が失われることがないよう、担当者間、担当者の上位者、トップ、同僚との間で共有していく必要があると考えている。

4 マイスター・ハイスクールに加えて留意したいこと

マイスター・ハイスクール事業の取組について、パーソナルコンピューターに例えるなら、オペレーティングシステム上で動作するアプリケーションソフトと考えている。

すなわち、農業高校の場合、学校農場をはじめとしたハードウェアがあって、そのハードウェアを前

提として、教育課程があり、マイスター・ハイスクール事業があると、マザーボードにオペレーティングシステムが、その上にアプリケーションソフトウェアがあるものと同様に捉えている。

当然、マザーボード、オペレーティングシステムに問題があれば、アプリケーションソフトウェアを動かすことが出来ないのと同様に、マイスター・ハイスクール事業の取組もベースとなる教育基盤があつてこそのもとなる。

学校農場に関しては、老朽化や生産現場との技術体系の乖離が少ないよう、その充実と改善に不断に取り組む必要があり、教員の資質向上はもとより、教員一人ひとりが技術情報に関するアップデートを外部有識者とともに取組む時間的、精神的余裕を確保する必要がある。こうした課題には、財源と人員の確保が必要となる。

また、マイスター・ハイスクール事業に参画する生徒にあつても、最低限の学校、社会のルールを守れる必要があるし、他の生徒の教育環境を阻害することがないように配慮できることが求められる。こうした条件に関しては、高校に入学する以前における教育環境を整える必要があり、地域で暮らす環境もより良くしていくことができるよう、基礎自治体や自治組織の不断の取組も期待される。

マイスター・ハイスクール事業は「魔法の杖」にはなれない。初等教育を含む教育の連続性、学校長や管理職が一定の裁量権を維持できる教育資源の確保、拡充など今後、横展開を図るにあたっては、より配慮が必要なことと考えている。それを教育行政の担当者に押しつけるようなことはなく、教育行政の担当者とともに企業をはじめ地域を構成する様々なステークホルダーの参画を期待したい。参画できるような仕組み化について、本校においては第5章でコンソーシアム提示しているが、横展開においては、地域にあった仕組み化が期待される。

5 まとめ — 事業の評価とイノベーターの育成 —

第3章にて定量的評価・定性的評価について示している。また、卒業生を今後もトレースしていくことも示している。

他方、我が国においては人口が減少し、超高齢社会が到来している中であつて、また、世界に目を転じるとグローバル化、ボーダレス化が進展するとともに、経済・社会に対しては、デジタルトランスフォーメーションが要請される状況に置かれている。こうした経済・社会の大きな変動の中、今後、この調査研究において、対応し得るイノベーターの育成という成果に帰結したのか、長い目で検証していく必要がある。

今回の調査研究では、マイスター・ハイスクール運営委員会の委員長(新ひだか町町長)、副委員長(JAしずない会長)といった地域の指導者の強力な指導の下で取り組まれた。

委員長・副委員長とも本校の系譜にある学校の出身者であり、50年ほど前の教員、教育資源の中での生徒であつた方々である。

委員長・副委員長の今があることと同様に、マイスター・ハイスクール事業を経験した生徒が50年後に地域の経済社会をけん引する、経営・経済を変革するイノベーターであつてもらいたいと考えている。